

子ども・子育て支援事業に係る基礎調査(利用希望把握調査)の
結果(速報版)について

1. 調査の趣旨

- ・本調査は、子ども・子育て支援法に基づく次期神戸市子ども・子育て支援事業計画(2025年～2029年度)を策定するにあたり、子ども・子育て支援事業の利用希望見込みを算出するため実施した。
- ・本調査にあたっては、こども家庭庁より「量の見込み」の算出等の考え方(こども家庭庁令和5年9月20日付)が示されており、原則として、国の手引きに基づき行っているが、こども誰でも通園制度に関する設問などを追加し、利用希望を調査した。

2. 調査の期間

2023年12月20日～2024年1月10日

3. 調査票の回答数

調査種別	調査対象	配布数	有効回収率	<参考> 前回 (H30年)
①就学前児童調査	未就学児童がいる世帯	20,000	35.1%	51.4%
②小学生低学年児童調査	小学校低学年児童がいる世帯	10,000	33.0%	51.6%
③小学生高学年児童調査1	小学校高学年児童がいる世帯	10,000	28.6%	39.4%
④小学生高学年児童調査2	小学校高学年児童本人	10,000	22.8%	38.9%
合計		50,000	30.9%	46.5%

<主な調査項目>

- ・世帯の状況、保護者の就労状況 ・子育ての状況
- ・定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望
- ・不定期な一時預かり(宿泊を伴うものを含む)等の利用状況と利用希望
- ・病気やケガの際の対応 ・地域における子育て支援等 ・育児休業の取得状況
- ・小学校就学後の放課後の過ごし方 ・放課後児童クラブ(学童保育)の利用状況
- ・こどもの居場所の利用状況 ・小学校就学後の休みの日の過ごし方 など

4. 調査結果(速報版)

別紙のとおり

5. 次期計画について

(1) 方向性

- ・次期計画は、「神戸っ子すこやかプラン 2024」と同様に、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を内包するものとし、本調査結果及び国の手引きに基づき、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業の利用希望見込み(※)を算出する。
- ・令和5年4月1日に施行された「こども基本法」では、都道府県や市町村における「こども計画」の策定が努力義務とされており、「神戸っ子すこやかプラン 2024」の次期計画を「こども計画」に位置付けることを念頭に置いている。
- ・そのため、現在実施しているこどもに対するアンケート調査の結果や、現行の課題分析等を踏まえて次期計画を策定する。

※子ども・子育て支援事業の利用希望見込みのうち、教育・保育に関するものについては、まず教育・保育部会において検討を行う。

(2) 今後の計画策定スケジュール(予定)

2024年	4月12日	こどもに対するアンケート調査の回答締切
	4月頃	利用希望調査結果の詳細版の報告
	5月頃～	教育・保育に関する利用希望見込みの検討(教育・保育部会)
	7月頃～	計画骨子・素案の検討(7月・9月・11月・3月頃予定)
	12月頃	市民意見募集の実施
2025年	2月頃	市議会報告
	3月	計画策定

子ども・子育て支援事業に係る基礎調査（利用希望把握調査）の主な質問項目

(1) 国の手引き(前回調査)に準拠するもの

区分	主な設問内容	設問趣旨
就学前児童世帯	①子どもの保護者の就労状況(フルタイム・パート・アルバイト)と今後の就労希望、身近な預け先 ②定期的な教育・保育事業の利用状況と希望(平日・土休日別) ③不定期な教育・保育サービスの利用状況と希望 ④放課後の過ごし方の希望 ⑤育児休業制度等の利用状況	①現在と潜在※家庭類型の把握 ②地域別・年齢別の教育保育事業の利用希望を把握 ③一時預かり・ファミリーサポートセンター・病児保育・地域子育て支援事業の利用希望を把握 ④学童保育の利用希望を把握 ⑤希望とする育児休業制度の利用期間の把握
小学生児童世帯	①子どもの保護者の就労状況(フルタイム・パート・アルバイト)と今後の就労希望、身近な預け先 ②放課後の子どもの過ごし方、居場所の状況 ③不定期な教育・保育サービスの利用状況と希望	①現在と潜在家庭類型の把握 ②・③学童保育、ファミリー・サポート・センター、病児保育等の利用希望を把握
小学生高学年の子ども自身	①家庭の構成 ②放課後の過ごし方(時間帯別) ③休みの日の過ごし方	①学童保育の本人の利用希望の把握等 ②居場所の把握
【共通】	子育て支援に関する自由意見	

※「家庭類型」・・・「ひとり親」「フルタイム×フルタイム」「フルタイム×パート(120時間以下)」「パート×パート」「専業主婦」などの類型

(2) 前回調査からの主な変更点

国が手引きにおいて新たに追加することとしている項目や、法改正等により新たに量の見込みの算出が必要となる事業等について、質問を追加する。

追加項目	主な設問内容	趣旨
児童福祉法改正による新事業 【就学前 P7】 【低 P7・高 P7】	子育てで不安を感じることはあるか、子育ての協力を得られる環境にあるかどうか	子育てで不安に感じることや、家庭の抱えている問題などを把握するため。
こども誰でも通園制度 【就学前 P12】	在宅育児をしている方の利用意向及び利用希望頻度と利用したい理由	制度の利用ニーズを把握するため。
子育て短期支援事業(子育てリフレッシュステイ事業等) 【就学前 P18】	保護者の用事により、泊りがけで家族以外に預ける必要	国の手引きの変更により、保護者の育児疲れや育児不安などの事由による利用希望数を把握するため。
こどもの居場所の利用状況 【小学生本人 P6】	こどもの居場所の利用状況や感想	こどもの居場所の利用実態を、より詳細に把握するため。

神戸市
子ども・子育て支援事業
に係る基礎調査報告書
(速報版)

神戸市

目 次

I	調査の概要	1
II	就学前児童	2
1	回答者の状況	2
2	保護者の就労状況	3
3	子育ての状況	4
4	定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望	8
5	不定期の一時預かり（宿泊を伴うものを含む）等の利用状況と利用希望	12
6	病気やケガの際の対応	15
7	地域における子育て支援等	17
8	育児休業の取得状況など、職場の両立支援制度	22
III	小学生保護者	24
1	回答者の状況	24
2	保護者の就労状況	25
3	子育ての状況	26
4	放課後の過ごし方	32
5	不定期の一時預かり（宿泊を伴うものを含む）等の利用状況と利用希望	36
6	病気やケガの際の対応	38
IV	小学校高学年本人	40
1	放課後の過ごし方	40
2	放課後児童クラブ（学童保育）等の利用状況	41
3	休みの日の過ごし方	43

I 調査の概要

1 調査の目的

子ども・子育て支援法に基づき、神戸市の次期「子ども・子育て支援事業計画」（2025～2029年度）を策定するにあたり、子ども・子育て支援事業の利用希望見込みを算出するために実施。

2 調査対象

就学前児童保護者
小学生低学年保護者
小学生高学年保護者及び本人

3 調査期間

令和5年12月20日から令和6年1月10日

4 調査方法

郵送による配布
郵送もしくはインターネットによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童（保護者）	20,000通	7,026通	35.1%
小学生低学年（保護者）	10,000通	3,299通	33.0%
小学生高学年（保護者）	10,000通	2,861通	28.6%
小学生高学年（本人）	10,000通	2,278通	22.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各設問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、選択肢ごとの回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、選択肢ごとの回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

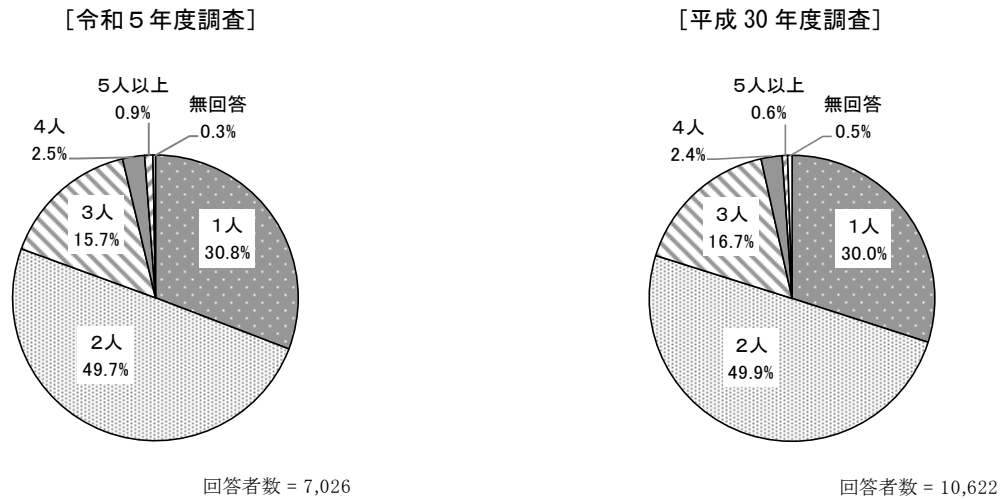
II 就学前児童

1 回答者の状況

1. 子どもの人数

【問5 宛名のお子さんを含め、お子さんは何人いらっしゃいますか。【単数回答】】

図1-1 子どもの人数



子どもの人数は1人が30.8%、2人が49.7%、3人以上は約20%となっている。(5年前とほぼ同様)

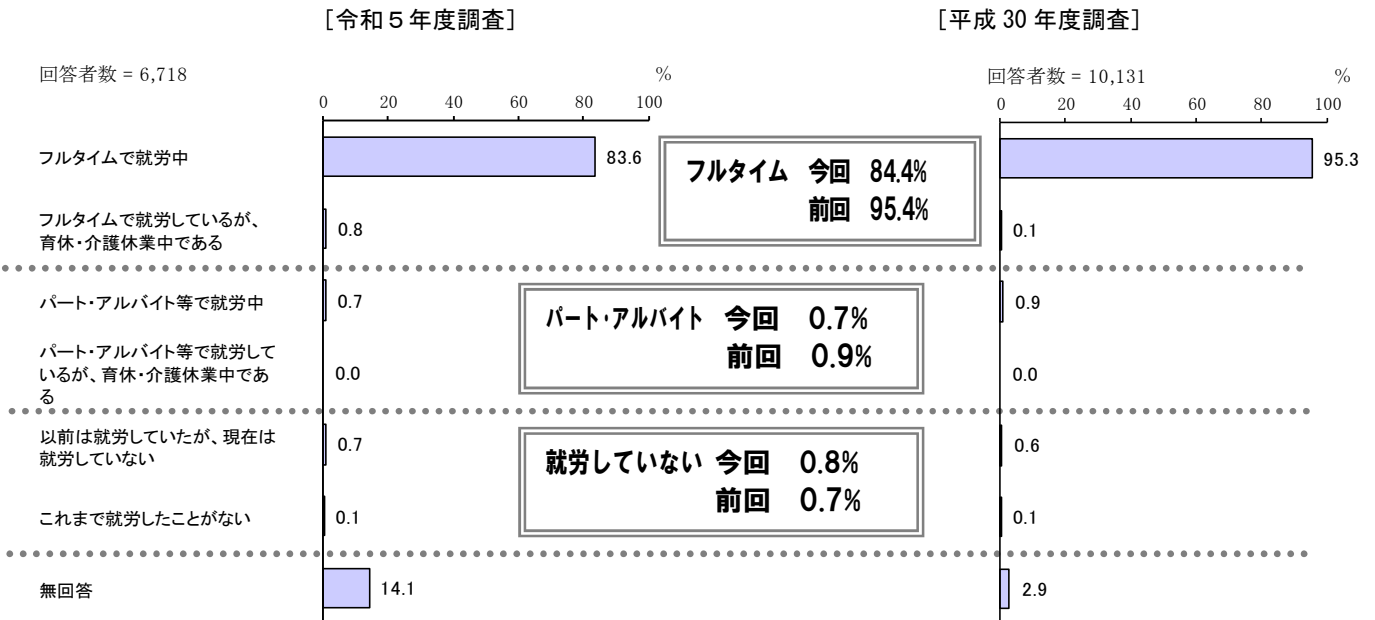
2 保護者の就労状況

1. 現在の就労状況

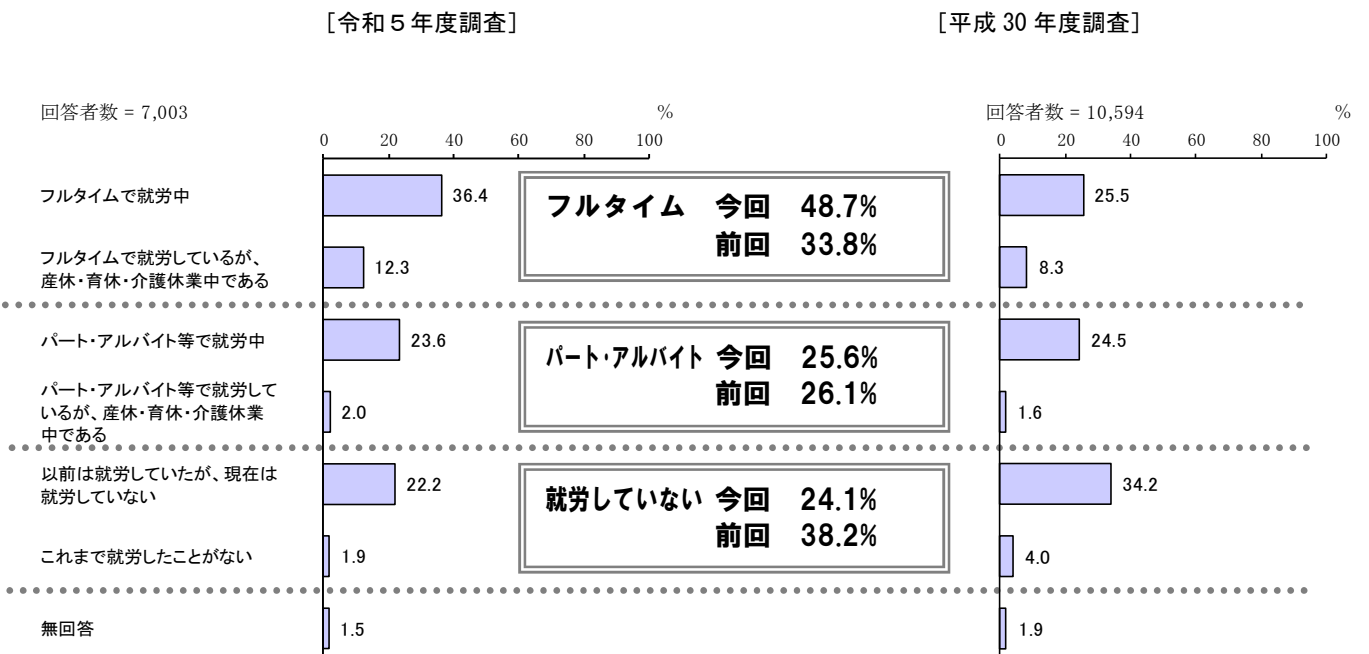
【問7 宛名のお子さんの保護者について、現在の就労状況をうかがいます。【単数回答】】

【父親】

図2-1 現在の就労状況



【母親】



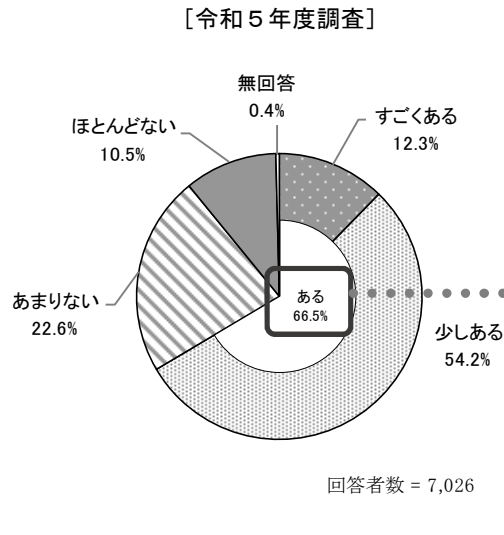
母親のフルタイムの就労は 48.7%、パートタイムの就労は 25.6%であり、両方合わせると 74.3%の母親が就労している。5年前と比べると、特にフルタイムの就労が 33.8% → 48.7%と 14.9ポイント増加している。

3 子育ての状況

1. 不安や悩み

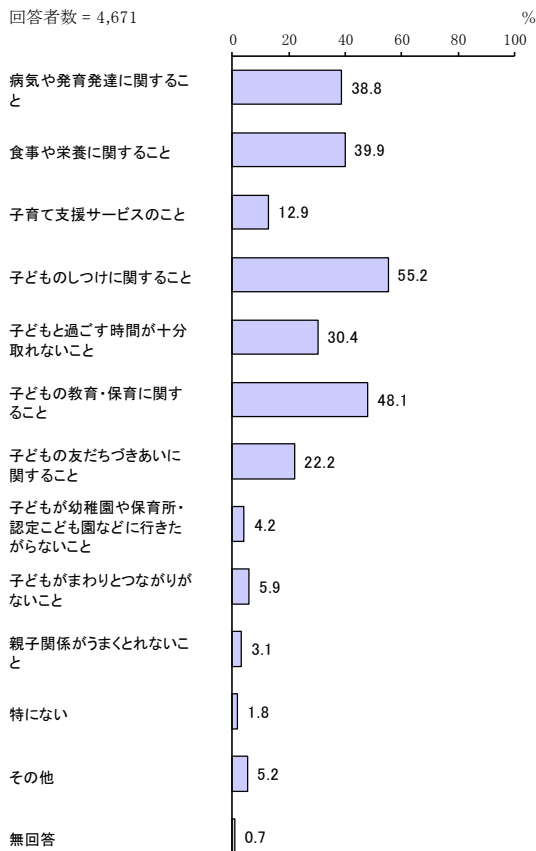
〔問10 あなたは、子育てをしていて、不安や悩みなどはありますか。【単数回答】〕

図3-1 不安や悩み

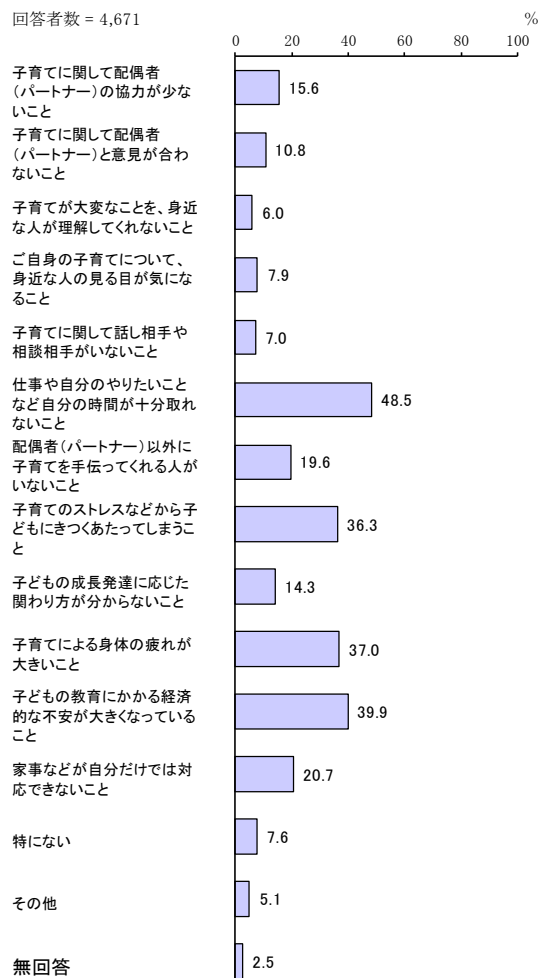


〔子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になること【複数回答】〕

【子どもに関すること】



【自身に関すること】

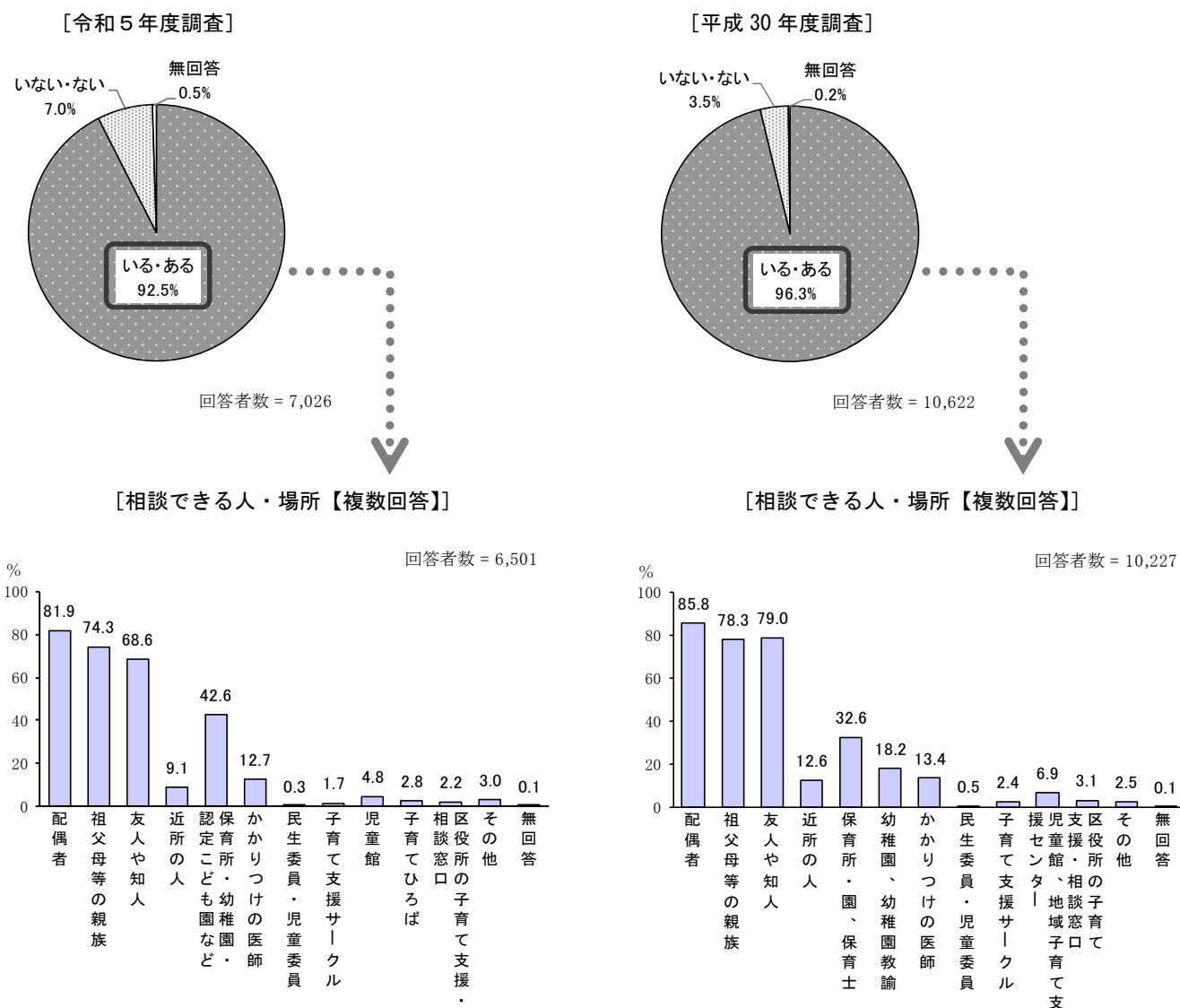


「すごくある」が12.3%、「少しある」が54.2%であり、合わせると66.5%の人が不安や悩みを抱えている。子どもに関することでは「子どものしつけに関すること」が55.2%、「子どもの教育・保育に関すること」が48.1%と多くなっている。自身に関することでは「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が48.5%と最も多く、次いで、「子どもの教育にかかる経済的な不安が大きくなっていること」が39.9%。「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」「子育てによる身体の疲れが大きいこと」についても、それぞれ約37%の回答がある。

2. 子育ての相談先

〔問 11 宛名のお子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がありますか。【単数回答】〕

図 3-2 子育ての相談先



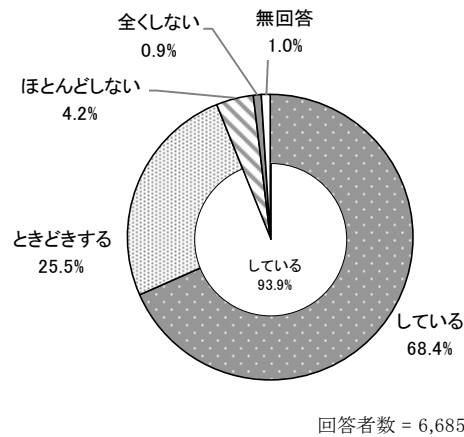
気軽に相談できる人や場所の有無について、「いる・ある」は92.5%であり、5年前とほぼ同様であるが、96.3%→92.5%とわずかに（3.8ポイント）減少。相談できる人や場所は、「友人や知人」が79.0%→68.6%と10.4ポイント減少。

3. 配偶者の子育て状況

〔問 12 配偶者も子育てをしていますか【単数回答】〕

図 3 - 3 配偶者の子育て

[令和 5 年度調査]



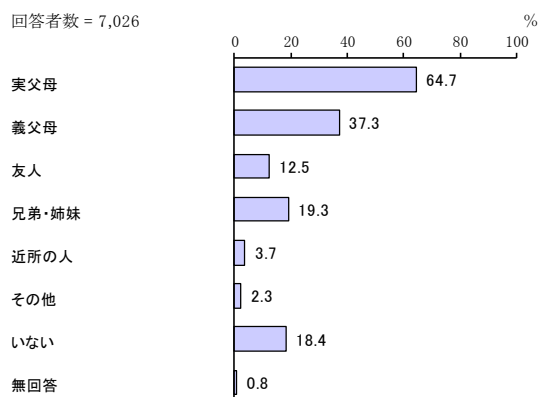
「している」は 68.4%となっている。
「ほとんどしない」と「全くしない」を合わせると 5.1%。

4. 子育ての協力者

〔問 13 配偶者以外で、子育てに協力してくれる人はいますか。【複数回答】〕

図 3 - 4 子育ての協力者

[令和 5 年度調査]

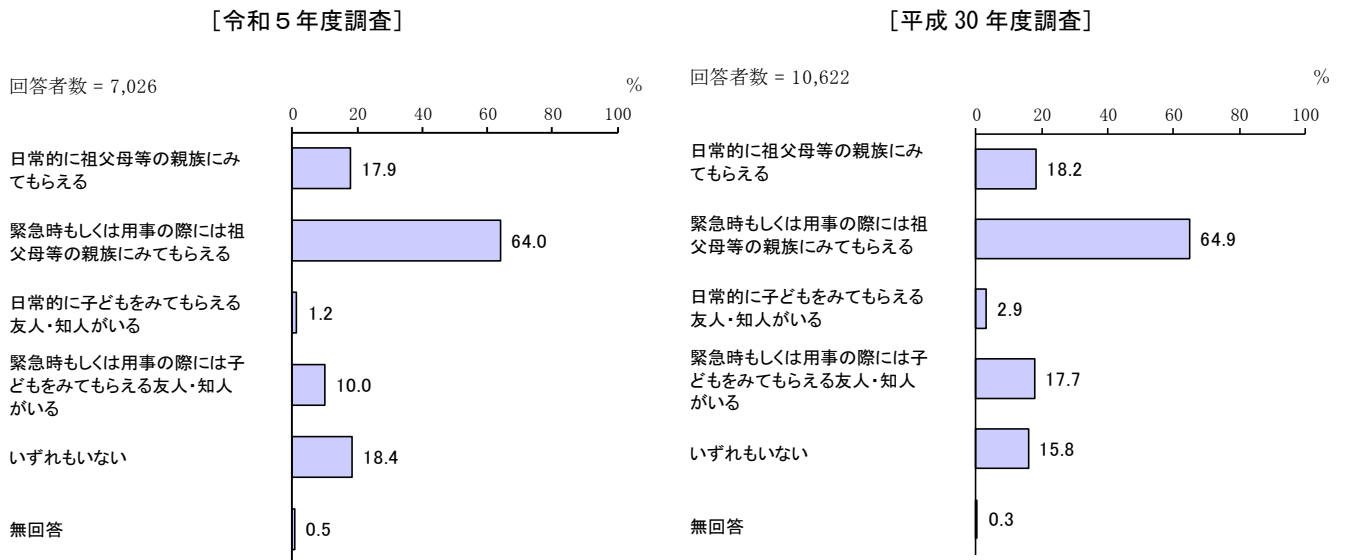


「実父母」が 64.7%と最も高く、次いで「義父母」が 37.3%、「兄弟・姉妹」が 19.3%。
「いない」の割合は 18.4%となっている。

5. 子どもの見守り

〔問 14 日頃、自分に代わって宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。【複数回答】〕

図 3-5 子どもの見守り



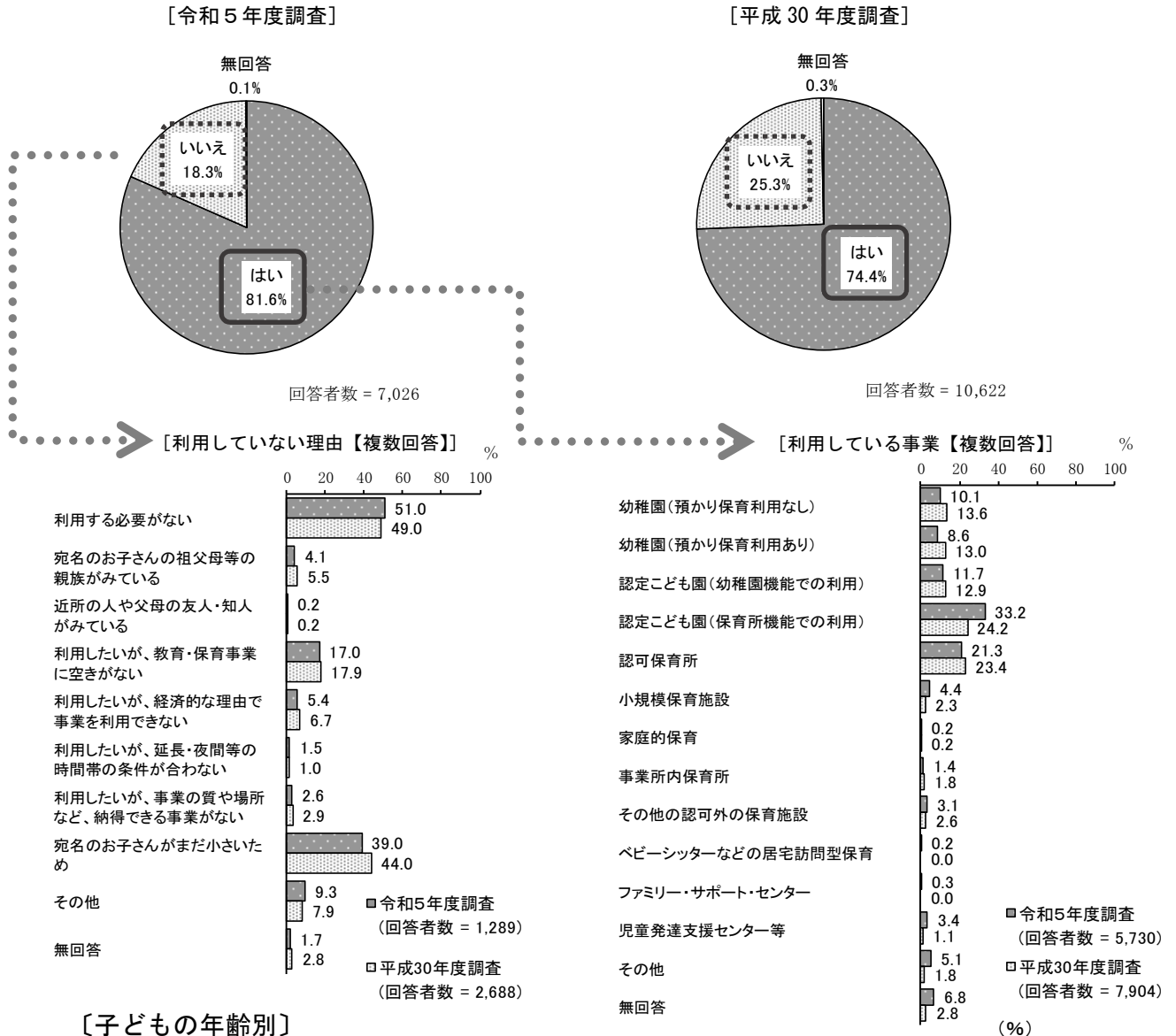
「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、64.0%。
 5年前と比較すると「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が17.7%→10.0%と7.7ポイント減少。
 「いずれもない」は18.4%。5年前と比較すると15.8%→18.4%とわずかに(2.6ポイント)増加。

4 定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望

1. 定期的な教育・保育事業の利用の有無

〔問 16 宛名のお子さんは、現在、平日の「定期的な」教育・保育事業を利用していますか。【単数回答】〕

図 4 - 1 利用の有無



〔子どもの年齢別〕

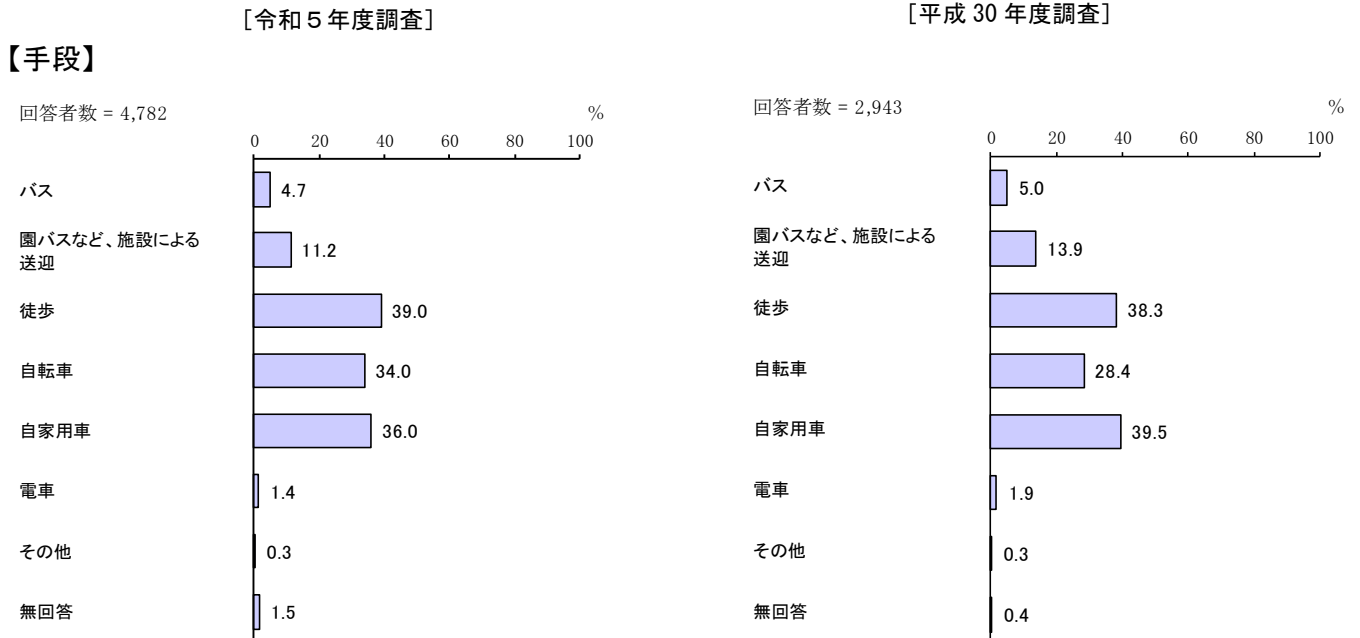
区分	有効回答数(件)	幼稚園(預かり保育利用なし)	幼稚園(預かり保育利用あり)	認可保育所	認定こども園(幼稚園機能での利用)	認定こども園(保育所機能での利用)	家庭的保育	事業所内保育	その他	無回答
0歳児	383	1.3	0.3	32.6	2.3	33.9	1.0	3.4	26.1	6.3
1歳児	786	2.3	1.1	25.7	1.4	40.1	—	2.5	28.1	6.5
2歳児	952	7.9	4.0	22.6	8.7	37.8	0.4	2.9	20.9	4.7
3歳児	1,137	13.4	9.9	21.6	16.3	29.9	0.1	0.5	12.8	6.7
4歳児	1,174	13.0	12.6	18.0	15.1	32.4	0.1	0.5	13.1	7.1
5歳児	1,204	13.8	15.0	17.2	15.9	28.6	—	0.4	9.7	8.6

平日の定期的な教育・保育事業を利用している方は81.6%となっており、5年前と比較すると74.4%→81.6%と7.2ポイント増加。特に、「認定こども園(保育所機能での利用)」が24.2%→33.2%と9.0%増加。

2. 所要手段

【問 16-3 家から施設までの交通手段と所要時間（片道）を教えてください。【複数回答】】

図 4 - 2 所要手段



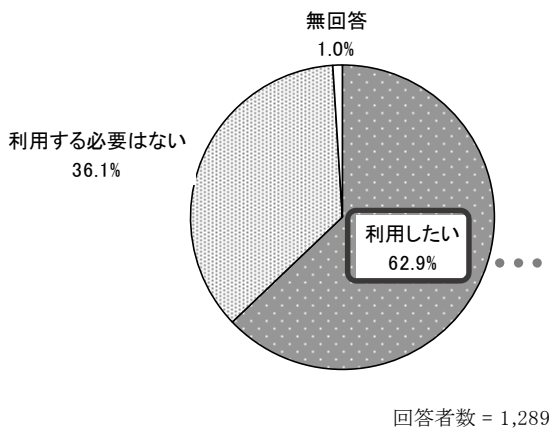
交通手段は「徒歩」が 39.0%、「自家用車」が 36.0%、「自転車」が 34.0%と同程度の割合となっている。

3. こども誰でも通園制度（仮称）について

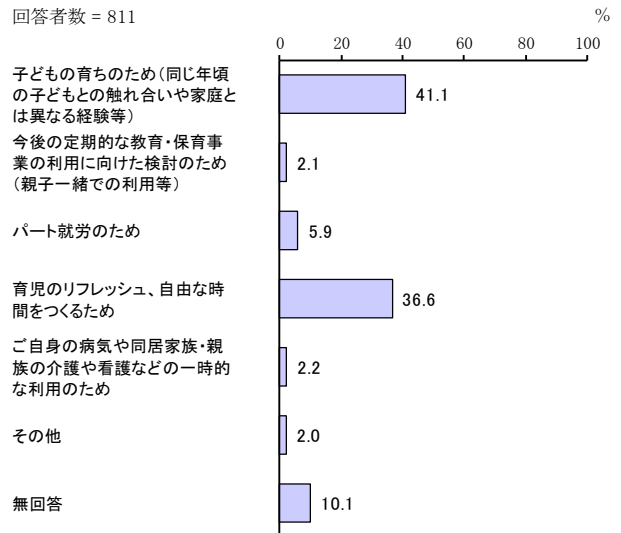
〔問 16-5 現在、平日の定期的な教育・保育事業を利用していない方で、宛名のお子さんについて、現在、国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」を利用したいですか。【単数回答】〕

図 4-3 こども誰でも通園制度（仮称）について

〔こども誰でも通園制度（仮称）の利用意向〕



〔利用したい理由【複数回答】〕

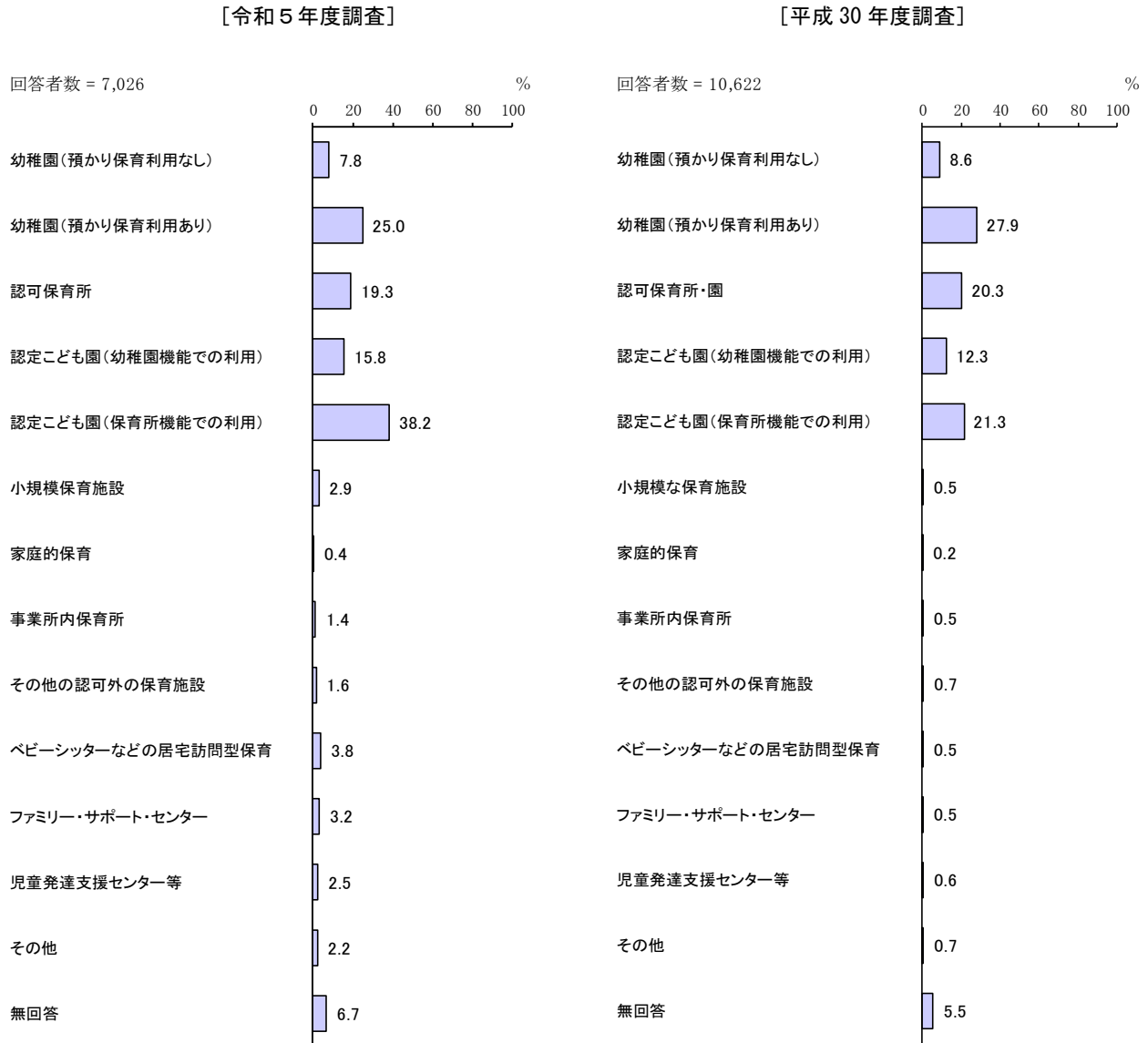


「利用したい」は62.9%。利用したい理由は「子どもの育ちのため（同じ年頃の子どもの触れ合いや家庭とは異なる経験等）」が最も高く、41.1%となっている。次いで、「育児のリフレッシュ、自由な時間をつくるため」が36.6%。

4. 定期的な教育・保育事業の利用希望

〔問 17 宛名のお子さんについて、現在、利用している、していないにかかわらず、平日の教育・保育事業として、今後どの事業を「定期的に」利用したいですか。【複数回答（4つまで）】〕

図 4 - 4 平日の教育・保育事業の希望



「認定こども園（保育所機能での利用）」が 38.2%と最も多く、5年前と比較すると 21.3%→38.2%と 16.9 ポイント増加。

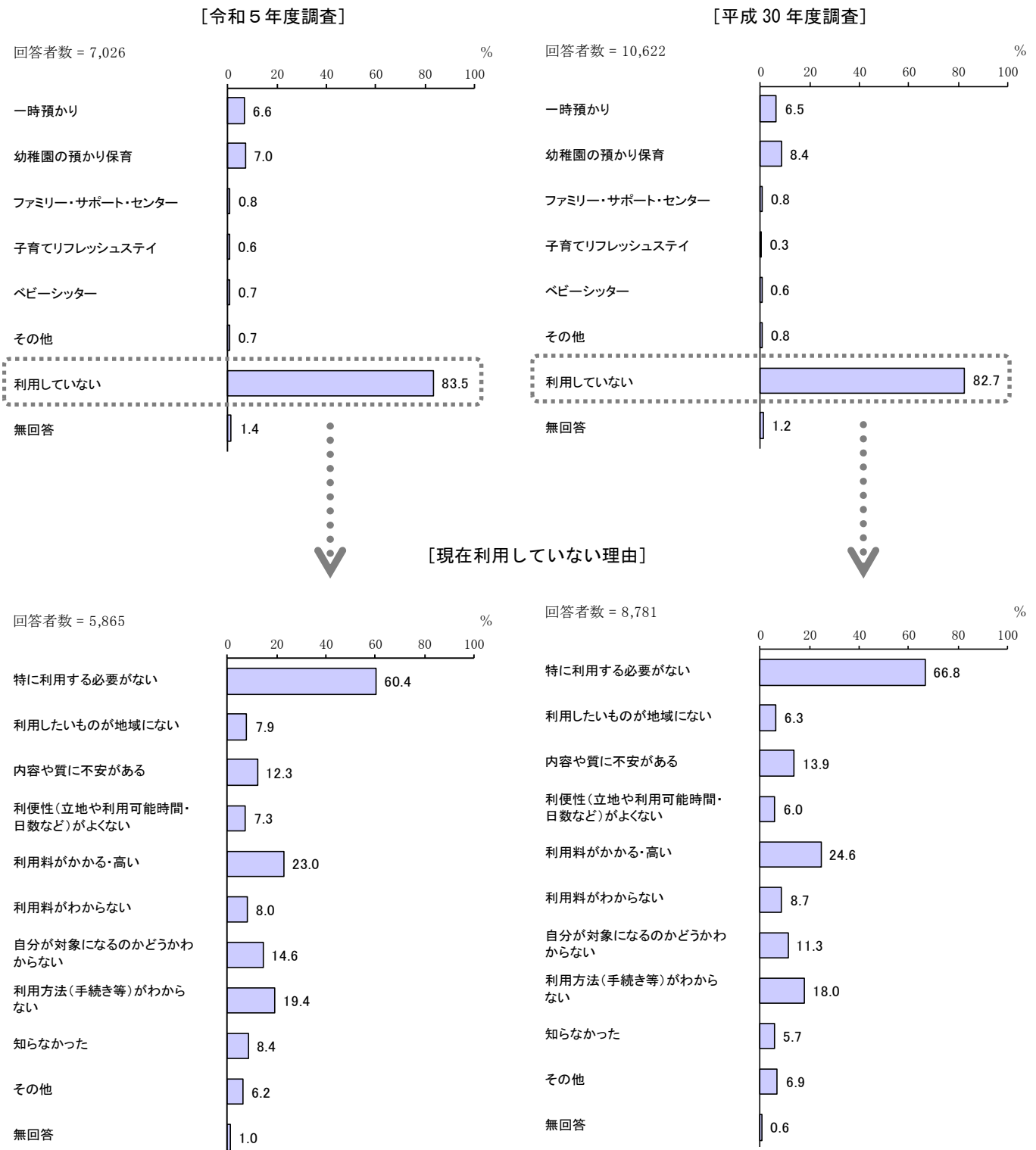
5 不定期の一時預かり（宿泊を伴うものを含む）等の利用状況と利用希望

1. 不定期の一時預かり等の利用状況及び利用希望

〔問 20 宛名のお子さんについて、(日中の定期的な教育・保育や病児・病後児の預かり以外に) 私用、リフレッシュ、冠婚葬祭、学校行事、家族の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業はありますか。【複数回答】〕

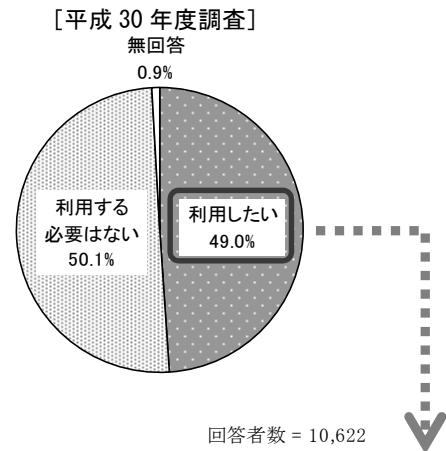
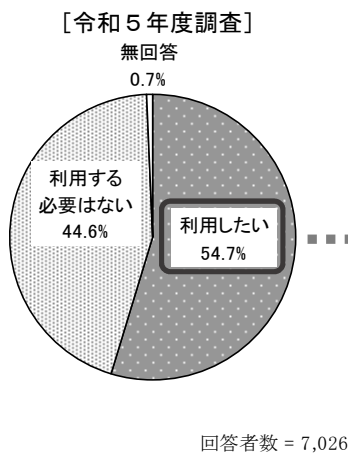
図 5 - 1 不定期の一時預かり等

【現状】

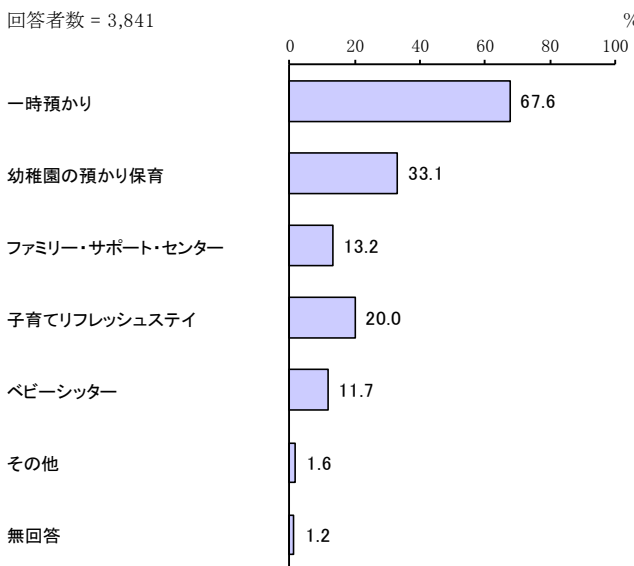


〔問 21 宛名のお子さんについて、私用、リフレッシュ、冠婚葬祭、学校行事、家族の通院、不定期の就労等の目的で、問 20 のような事業を不定期で利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。【単数回答】〕

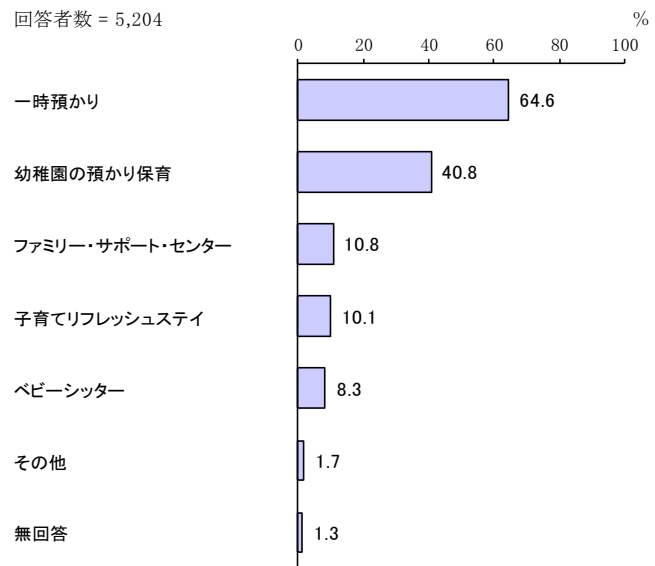
【利用希望】



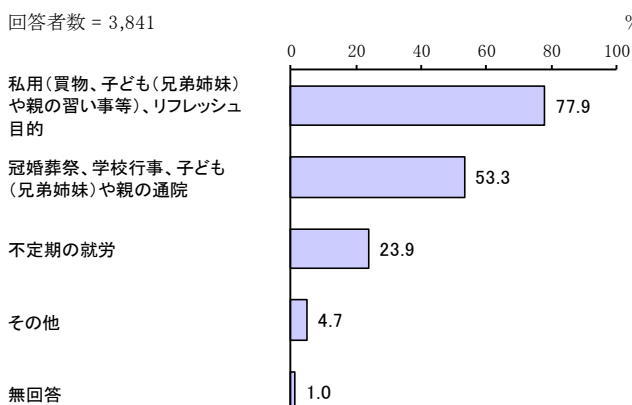
〔利用したい事業【複数回答】〕



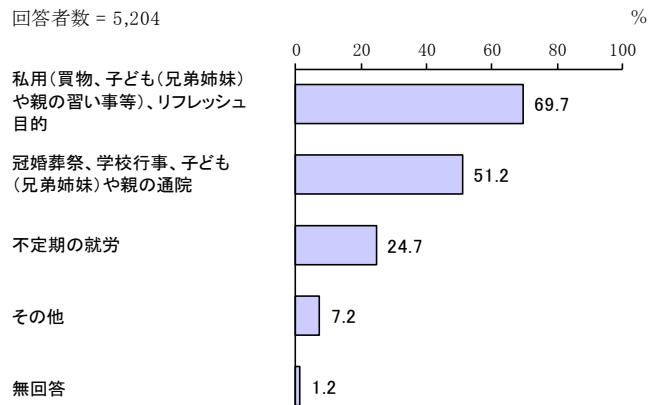
〔利用したい事業【複数回答】〕



〔利用目的【複数回答】〕



〔利用目的【複数回答】〕



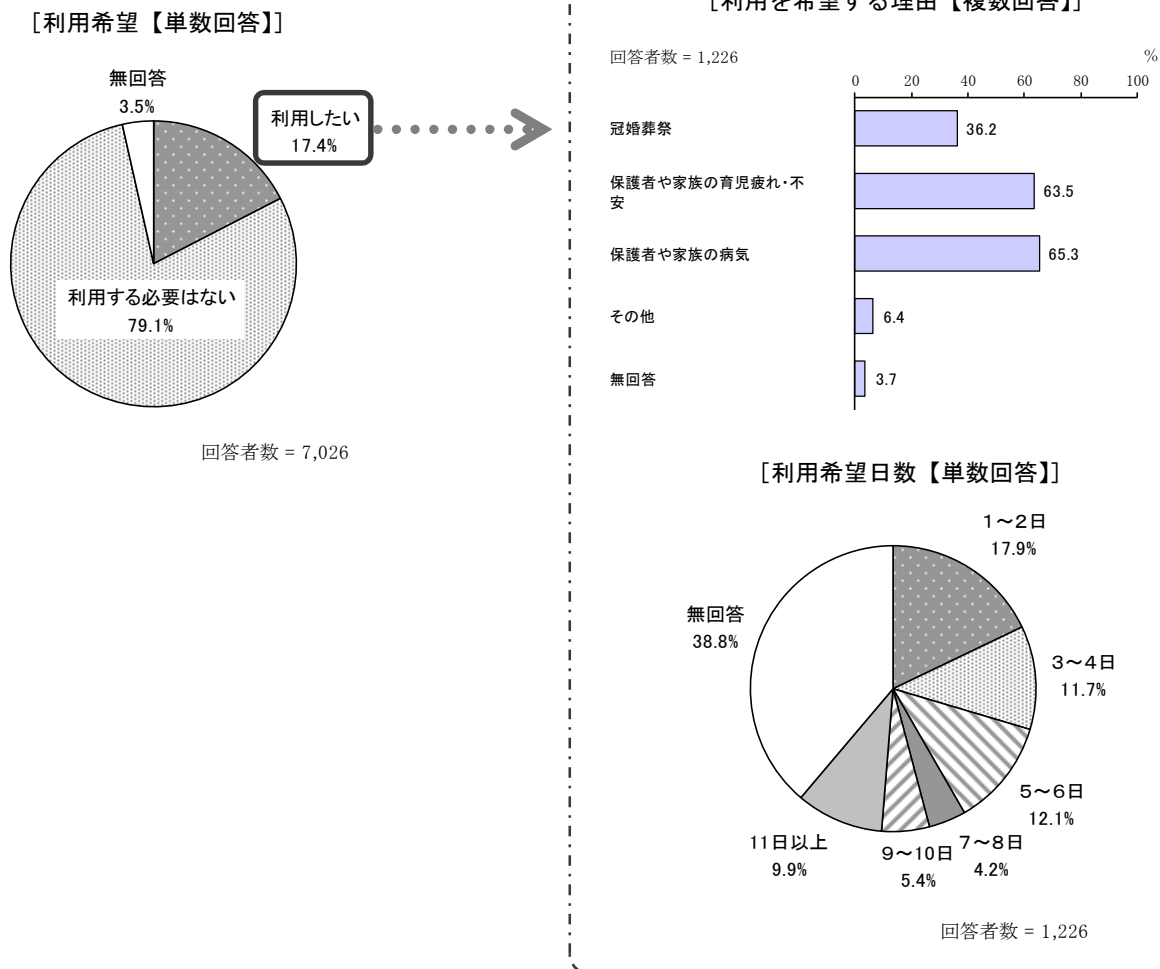
選択肢のいずれの事業も、利用しているという回答は少なく10%未満であり、利用していない人は83.5%となっている。利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」が60.4%と最も多いが、「利用料がかかる・高い」が23.0%、「利用方法（手続き等）がわからない」が19.4%と一定の回答がある。

利用希望を問う設問では「利用したい」が54.7%となっており、問20において利用していない理由として「特に利用する必要がない」と回答した層以外に潜在ニーズがあることがうかがえる。

2. 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望

〔問22 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください。〕

図5-2 短期入所生活援助事業の利用希望



短期入所生活援助事業を利用したい人は17.4%。その理由としては、「保護者や家族の病気」「保護者や家族の育児疲れ・不安」が多く、それぞれ65.3%、63.5%となっている。

利用希望日数は、10日以下が51.3%であり、11日以上は9.9%。

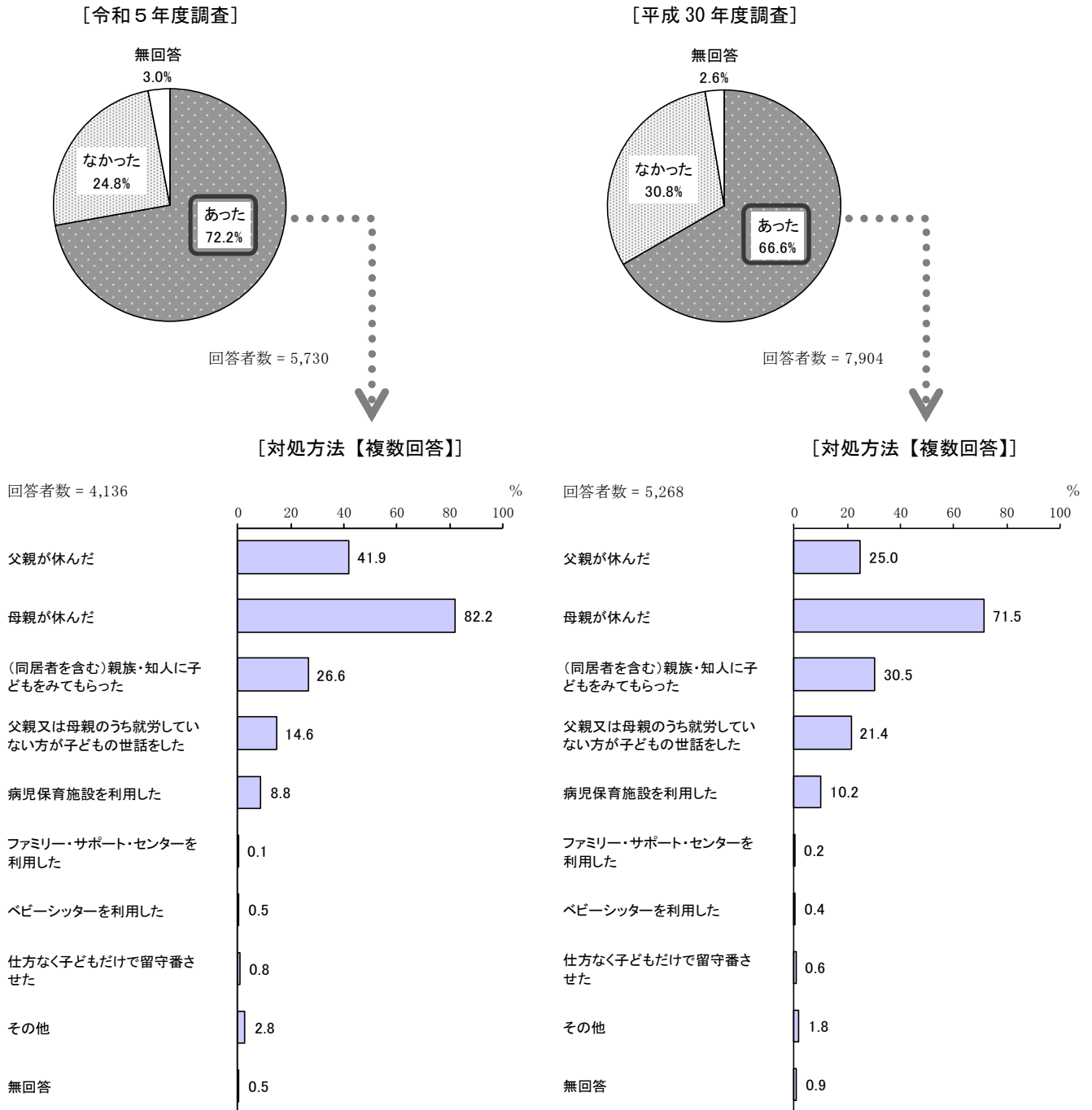
6 病気やケガの際の対応

1. 病気やケガの際の対応

〔問 23 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで定期的な教育・保育事業が利用できなかったことはありますか。【単数回答】〕

図6-1 病気やケガの際の対応

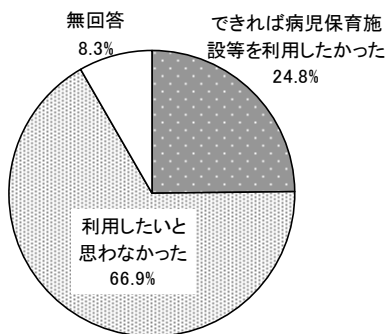
【利用の状況】



【問 23-4 問 23-1 で「5. 病児保育施設」「6. ファミリー・サポート・センター」を選ばなかった方に
うかがいます。その際、「できれば病児保育施設等を利用したい」と思われましたか。
【単数回答】】

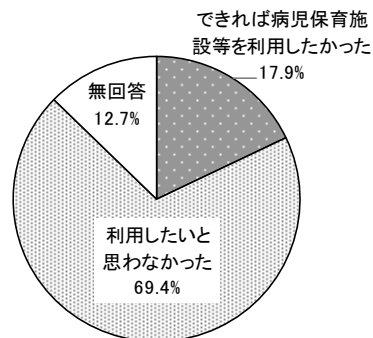
【利用希望】

[令和 5 年度調査]



回答者数 = 3,747

[平成 30 年度調査]



回答者数 = 4,678

教育・保育事業が利用できなかったことが「あった」が 72.2%、「なかった」が 24.8% となっており、5 年前と比較すると、「あった」が 66.6%→72.2%と 5.6 ポイント増加。対処方法では「母親が休んだ」が 82.2%、「父親が休んだ」が 41.9%となっている。5 年前と比較すると、「父親が休んだ」「母親が休んだ」が共に増加しており、特に「父親が休んだ」は 25.0%→41.9%と 16.9 ポイント増加している。

「病児保育施設を利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」はそれぞれ 8.8%、0.1%。それ以外の層が、問 23-4 において「できれば病児保育施設等を利用したかった」と回答した割合は 24.8%であり、5 年前と比較すると 17.9%→24.8%と 6.9%増加。

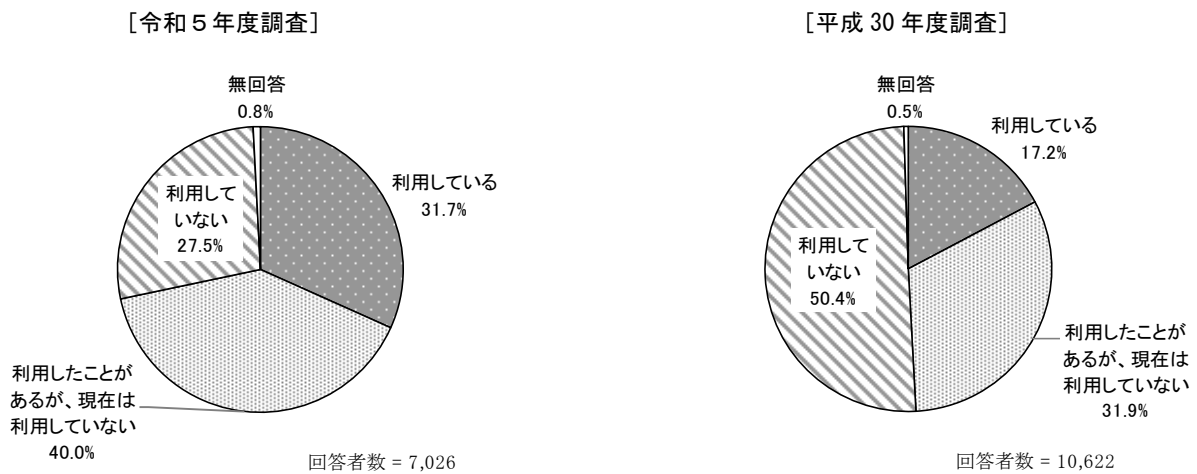
7 地域における子育て支援等

1. 地域子育て支援拠点事業の利用状況

〔問 24 市内には、こべっこランド、児童館での子育て支援（市内 120 箇所）、大学内子育て支援施設（市内 10 箇所）、おやこふらっとひろば（市内 9 箇所）、こべっこあそびひろば（市内 3 箇所）など、地域子育て支援拠点事業（「子育てひろば」として、親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場）が約 140 箇所あります。宛名のお子さんは、現在、その施設を利用していますか。【単数回答】〕

図 7-1 地域子育て支援拠点事業の利用状況

【利用状況】



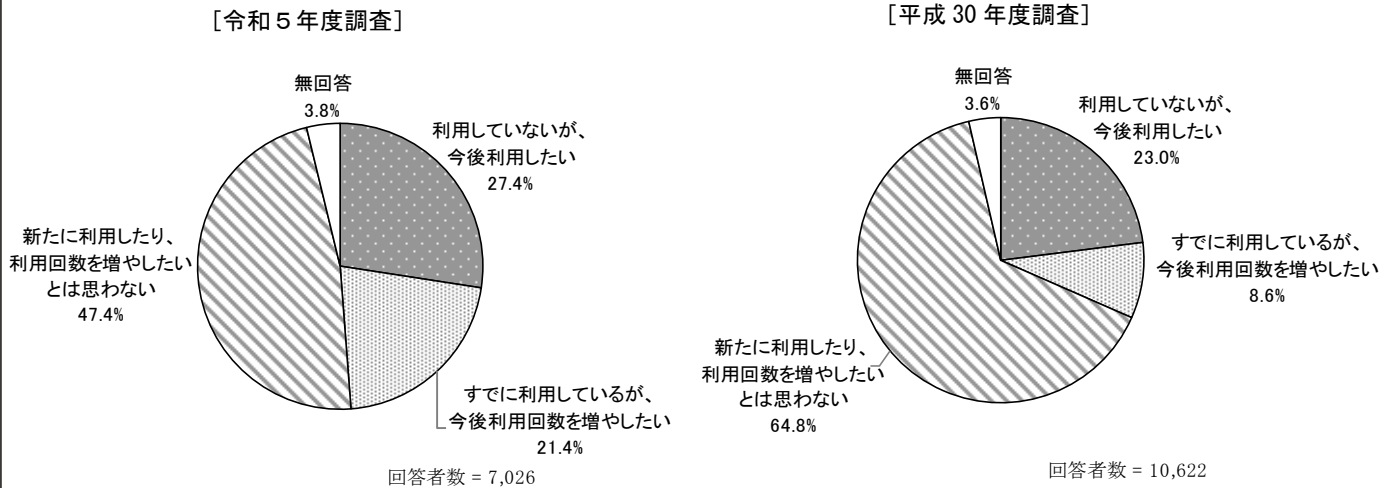
「利用している」が 31.7% であり、5 年前と比較すると、17.2%→31.7% と 14.5 ポイント増加。「利用したことがあるが、現在は利用していない」についても、31.9%→40.0% と 8.1% 増加している。

2. 地域子育て支援拠点事業の利用希望

〔問 25 問 24 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば今後利用したい、あるいは、利用回数を増やしたいと思いますか。【単数回答】〕

図 7-2 地域子育て支援拠点事業の利用希望

【利用希望】



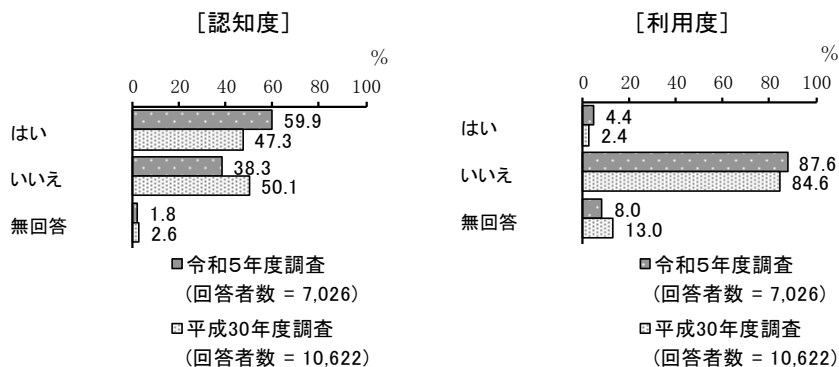
「利用していないが、今後利用したい」が 27.4%、「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が 21.4%となっている。5年前と比較するといずれも増加しており、特に「すでに利用しているが、今後利用回数を増やしたい」が 8.6%→21.4%と 12.8ポイント増加している。

3. 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用希望

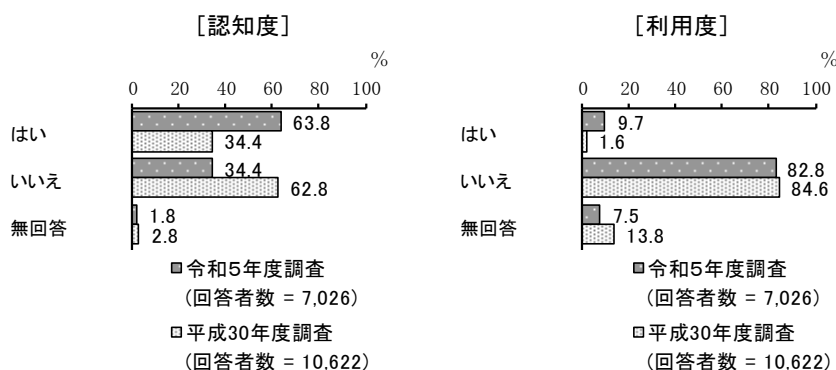
〔問 26 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるものについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。【単数回答】〕

図 7-3 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用希望

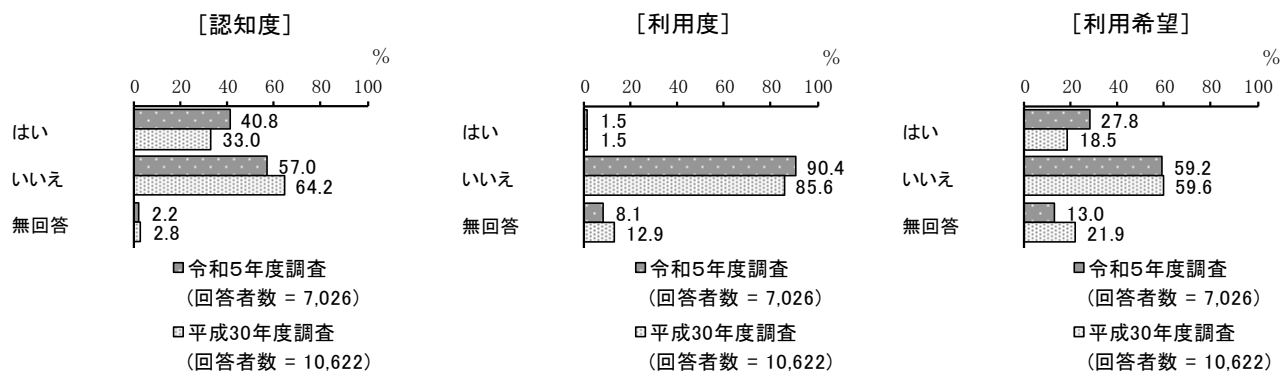
【①産前産後ホームヘルプサービス】



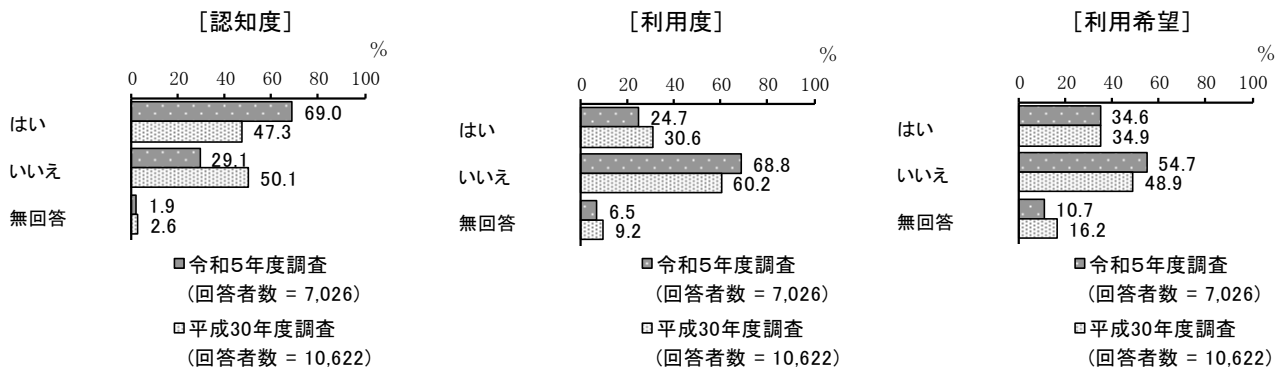
【②産後ケア事業】



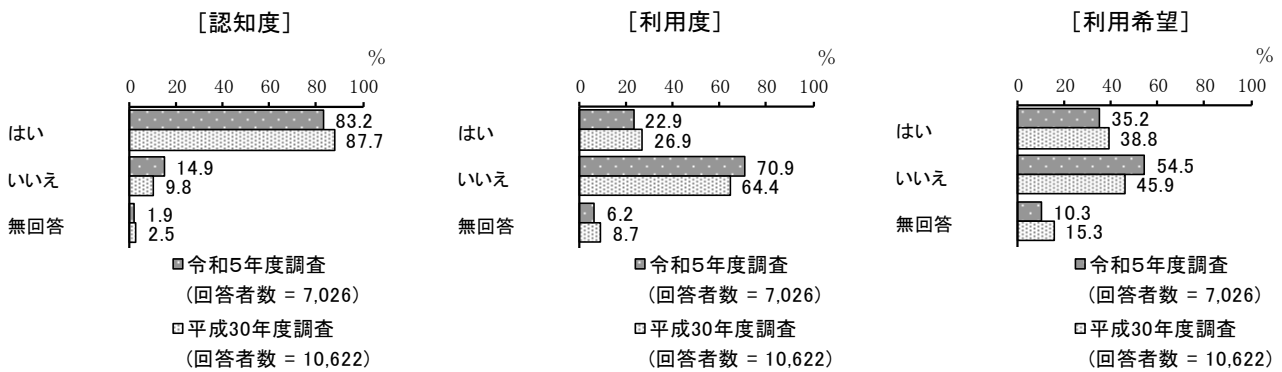
【③子育てリフレッシュステイ】



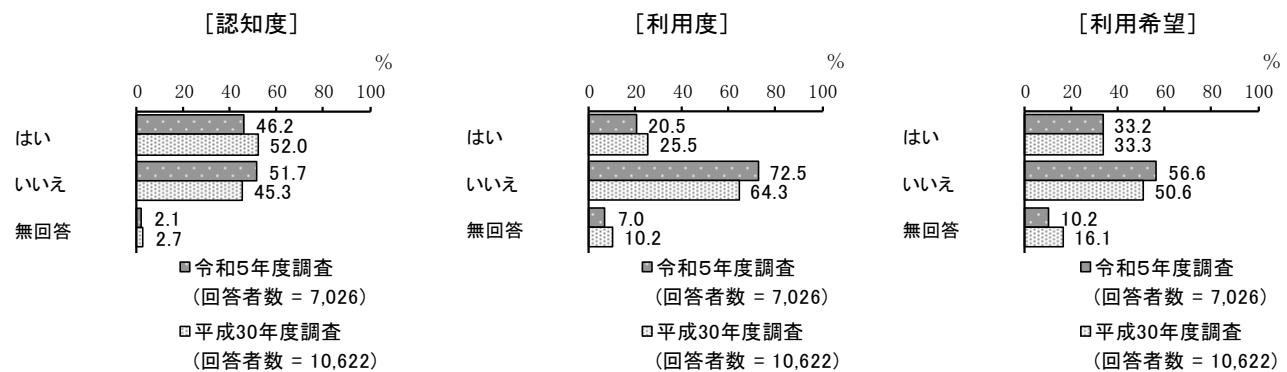
【④区役所が実施する子育て関連の各種教室】



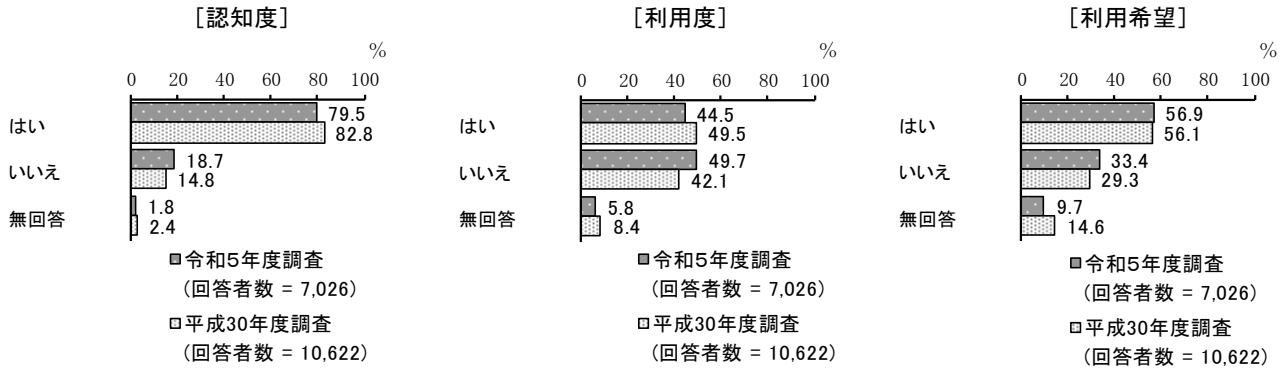
【⑤区役所の子育て支援・相談窓口（保健福祉課）】



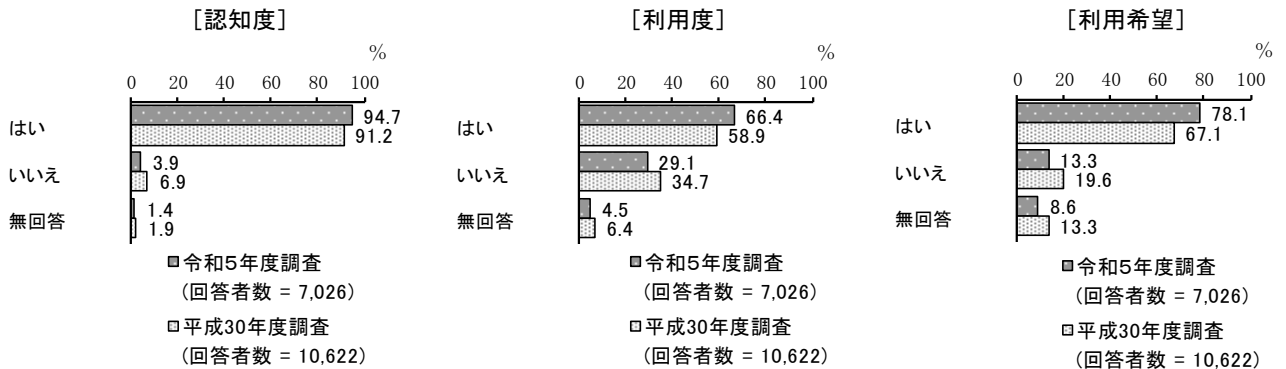
【⑥地域福祉センターなど児童館以外での主任児童委員等によるひろば】



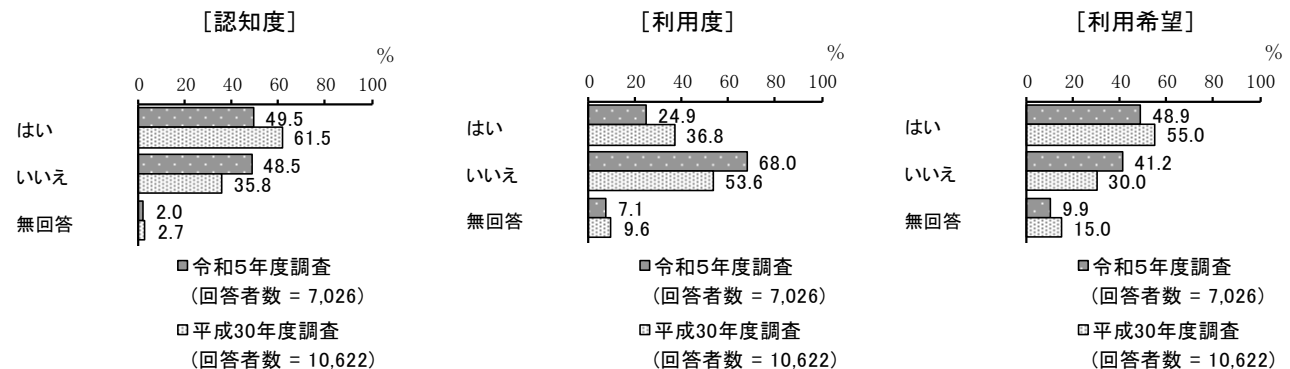
【⑦幼稚園、保育所、認定こども園の地域子育て支援事業など】



【⑧こべっこランド】



【⑨区役所等で発行する子育て情報誌】



全ての事業において、利用希望が利用度を上回っている。
 5年前と比較すると、特に『①産前産後ホームヘルプサービス』『②産後ケア』『③子育てリフレッシュステイ』『④区役所が実施する子育て関連の各種教室』の認知度が上がっている。
 逆に、『⑨区役所等で発行する子育て情報誌』については、認知度、利用度共に下がっている。

8 育児休業の取得状況など、職場の両立支援制度

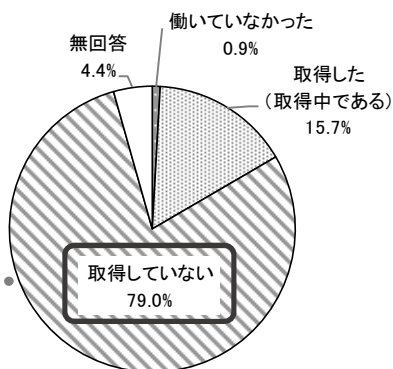
1. 育児休業の取得状況

〔問 29 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。【単数回答】〕

図 8-1 育児休業の取得状況

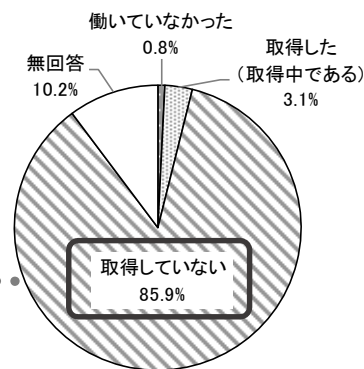
【父親】

[令和5年度調査]



回答者数 = 7,026

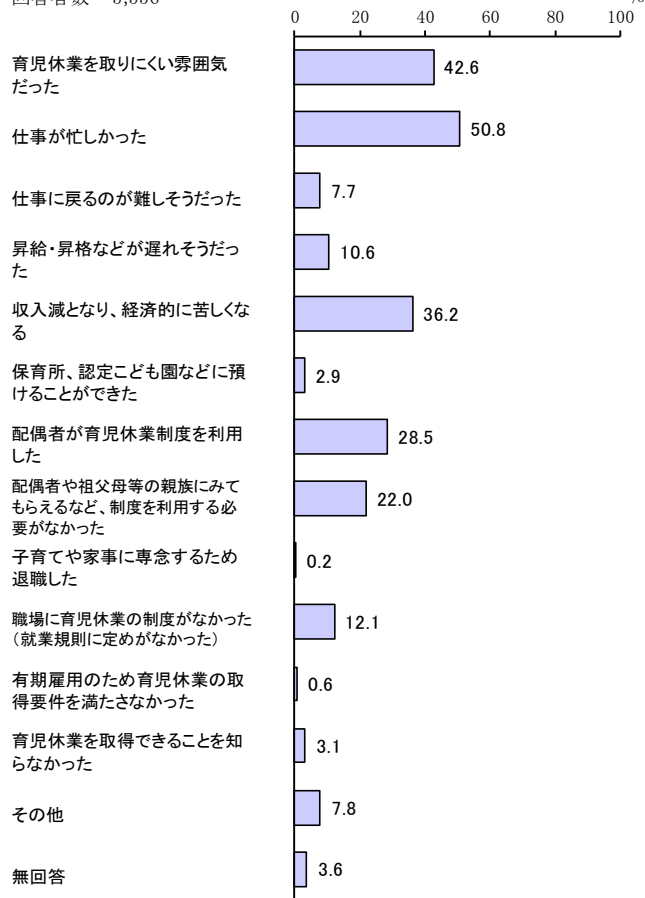
[平成30年度調査]



回答者数 = 10,622

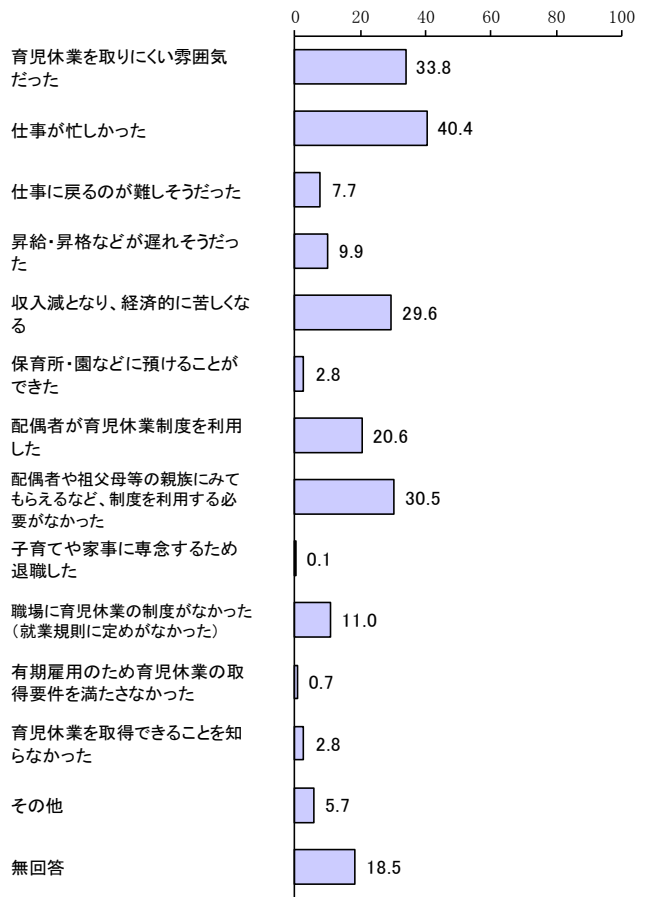
〔取得していない理由【複数回答】〕

回答者数 = 5,556



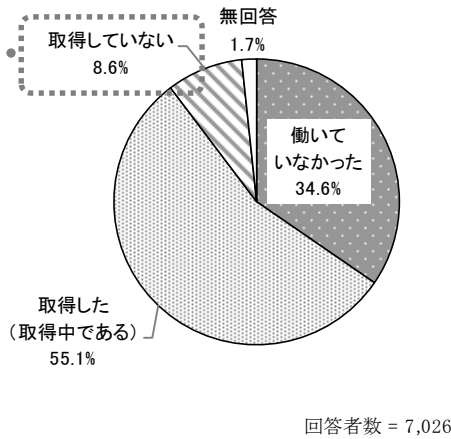
〔取得していない理由【複数回答】〕

回答者数 = 10,622

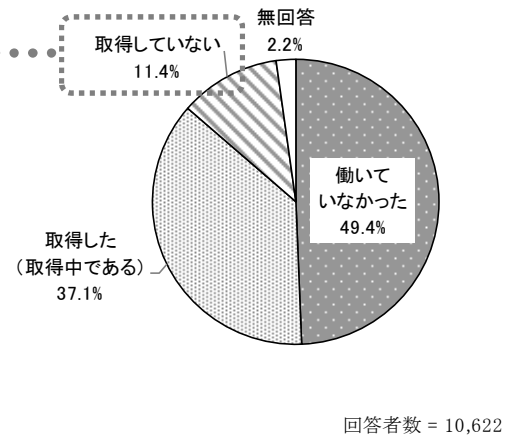


【母親】

[令和5年度調査]

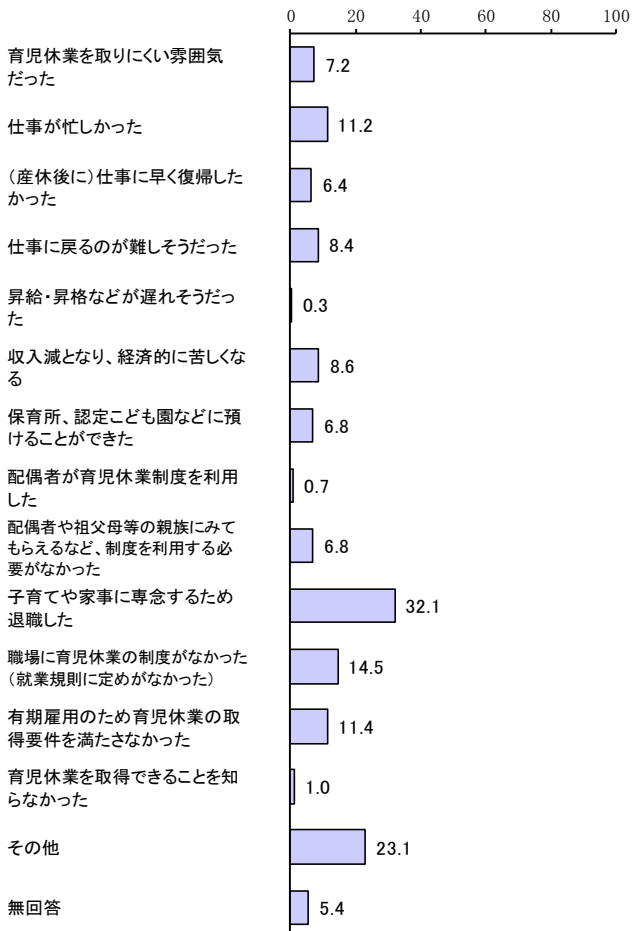


[平成30年度調査]



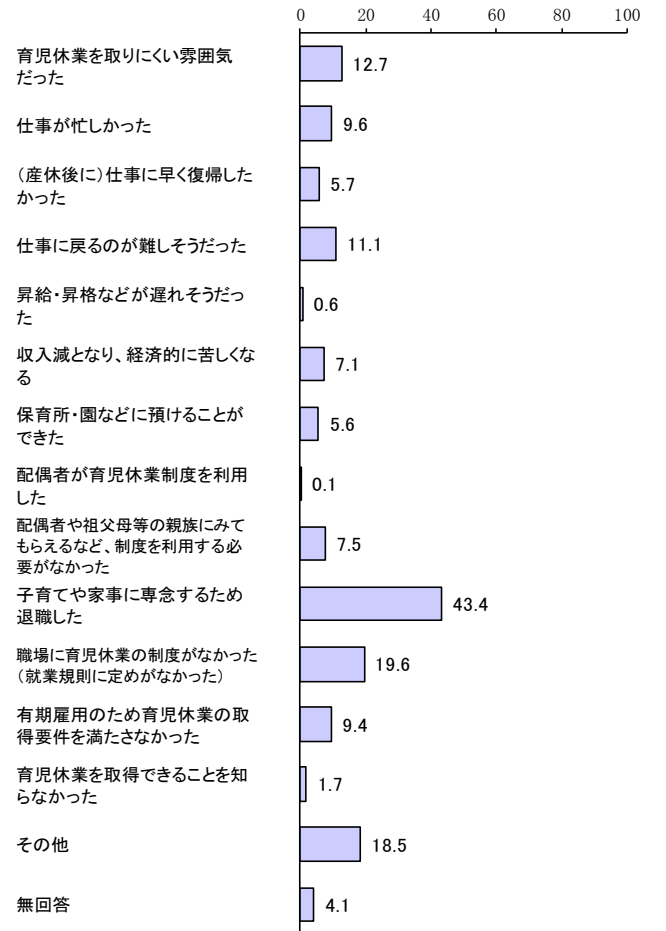
[取得していない理由【複数回答】]

回答者数 = 607



[取得していない理由【複数回答】]

回答者数 = 1,207



父親の育児休業取得について、「取得した(取得中である)」が15.7%であり、5年前と比較すると、3.1%→15.7%と12.6ポイント増加している。「取得していない」理由としては「仕事が忙しかった」が最も多く50.8%、次いで「育児休業を取りにくい雰囲気だった」が42.6%となっている。「配偶者や祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」は、5年前と比較して、30.5%→22.0%と8.5ポイント減少。母親の育児休業取得については、5年前と比較して「働いていなかった」が49.4%→34.6%と14.8ポイント減少し、「取得した(取得中である)」が37.1%→55.1%と18.0ポイント増加している。取得していない理由の「子育てや家事に専念するため退職した」は43.4%→32.1%と11.3ポイント減少。

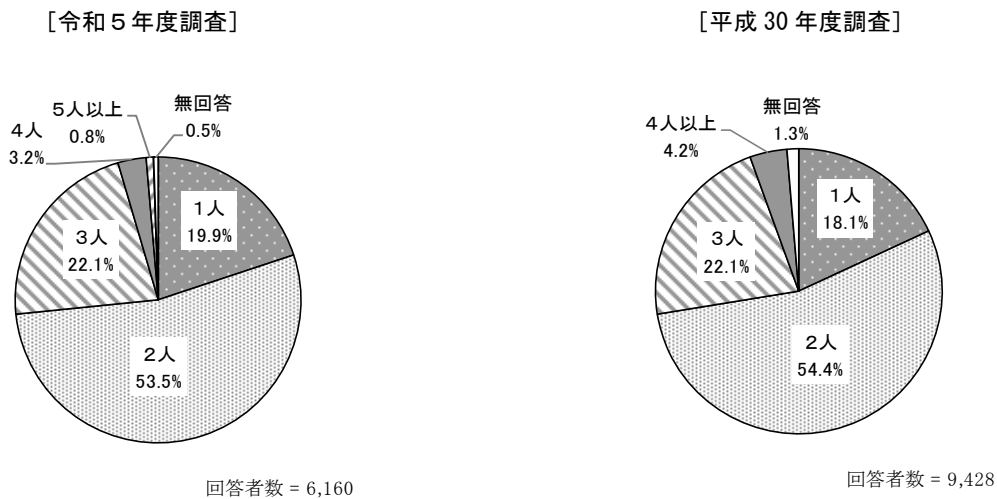
III 小学生保護者

1 回答者の状況

1. 子どもの人数

【問5 宛名のお子さんを含め、お子さんは何人いらっしゃいますか。【単数回答】】

図1-1 子どもの人数



子どもの人数は1人が19.9%、2人が53.5%、3人以上は約25%となっている。(5年前とほぼ同様)

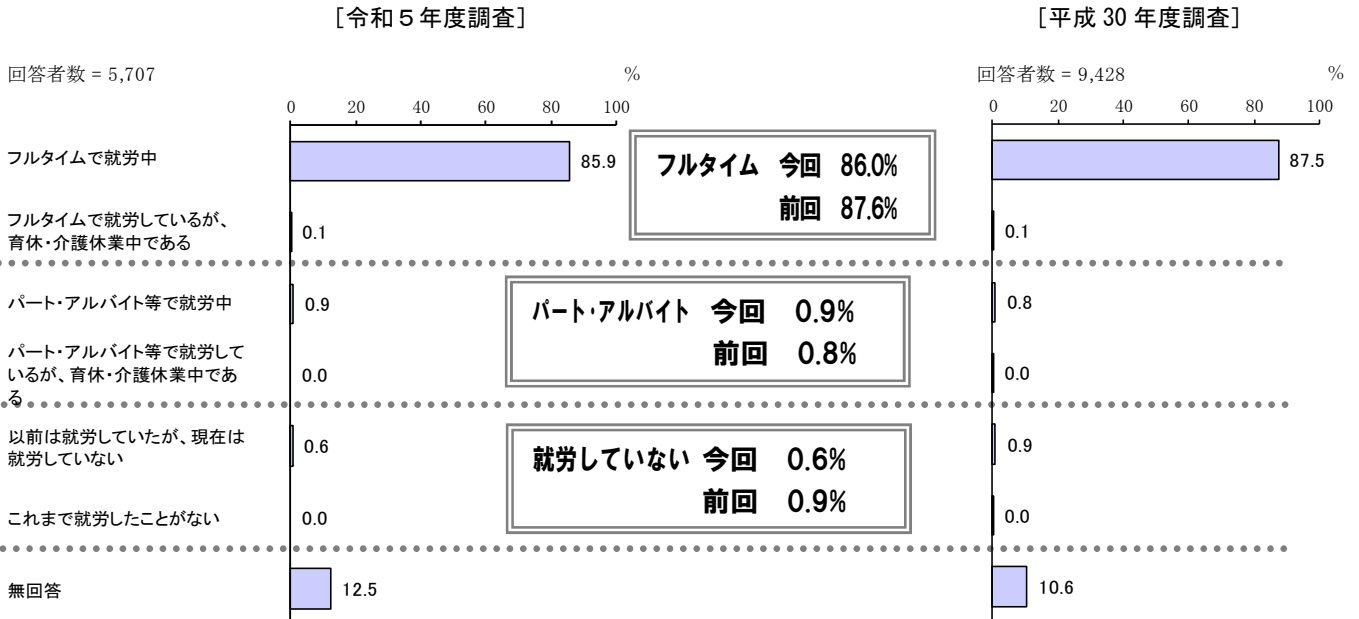
2 保護者の就労状況

1. 現在の就労状況

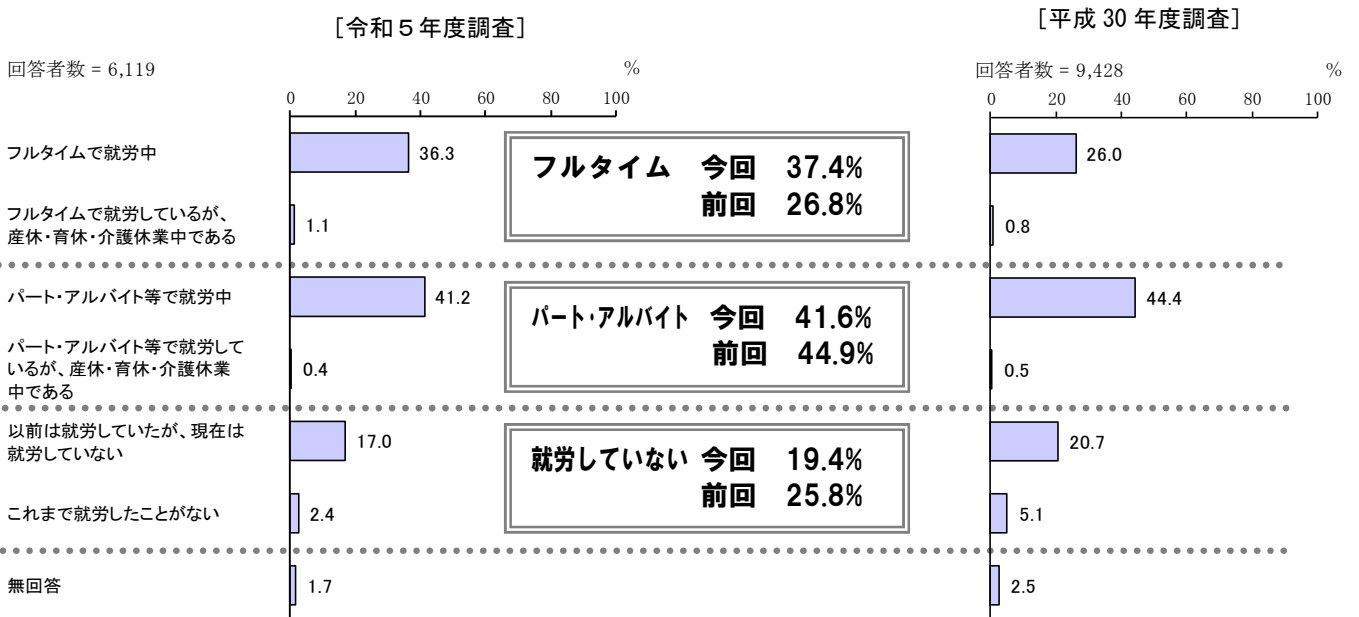
【問7 宛名のお子さんの保護者について、現在の就労状況をうかがいます。【単数回答】】

図2-1 現在の就労状況

【父親】



【母親】



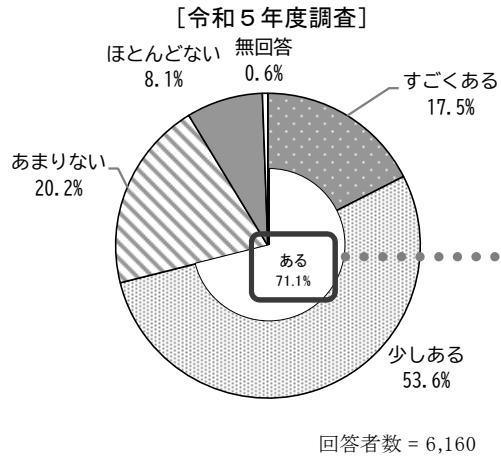
母親のフルタイムの就労は 37.4%、パートタイムの就労は 41.6%であり、両方合わせると 79.0%の母親が就労している。5年前と比べると、フルタイムの就労が 26.8%→37.4%と 10.6 ポイント増加している。

3 子育ての状況

1. 不安や悩み

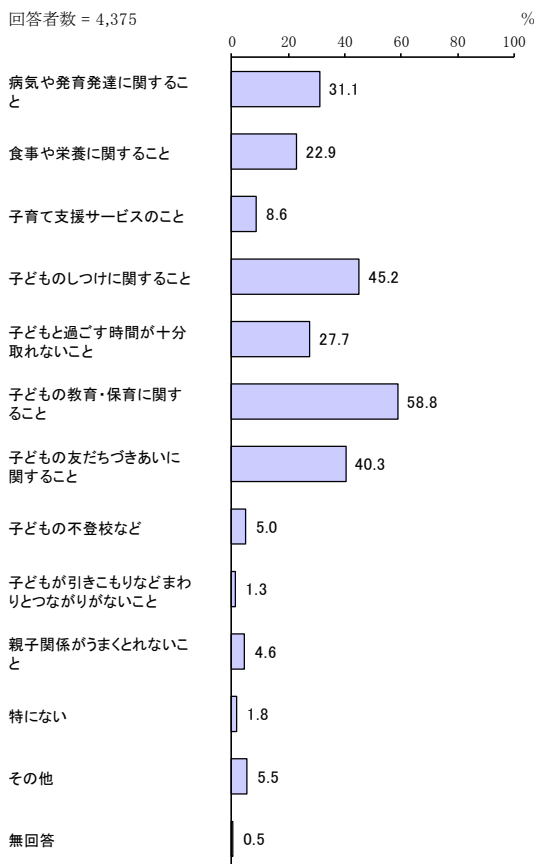
〔問10 あなたは、子育てをしていて、不安や悩みなどはありますか。【単数回答】〕

図3-1 不安や悩み

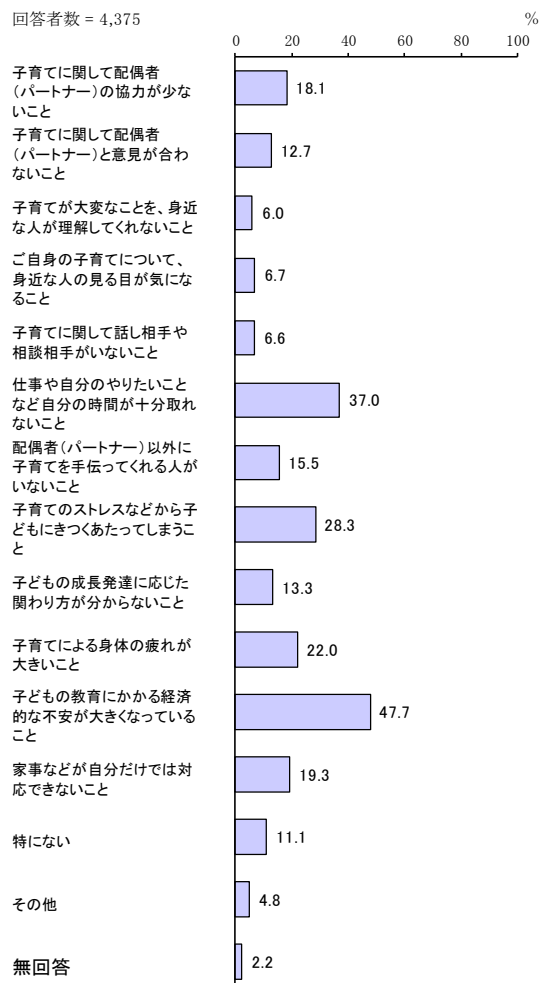


〔子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になること【複数回答】〕

【子どもに関すること】



【自身に関すること】



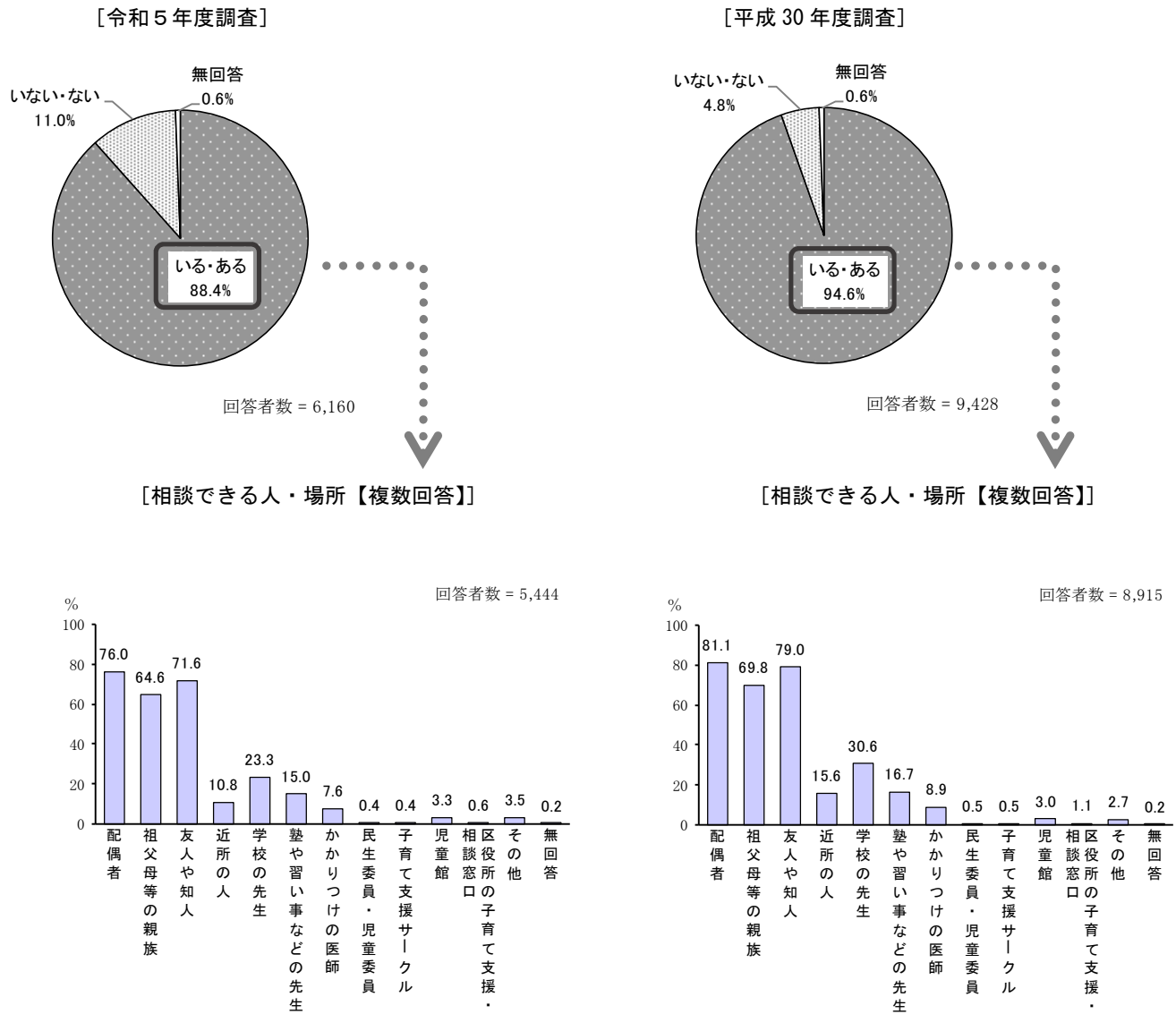
「すごくある」が17.5%、「少しある」が53.6%であり、合わせると71.1%の人が不安や悩みを抱えている。子どもに関することでは「子どもの教育・保育に関すること」が58.8%、「子どものしつけに関すること」が45.2%と多くなっているが、いずれも未就学児保護者と比較すると少ない割合となっている（「子どもの教育・保育に関すること」未就学児保護者比▲10.7%、「子どものしつけに関すること」未就学児児童比▲10.0%）。「子どもの友だちづきあいに関すること」は、40.3%となっており、未就学児保護者と比較して18.1ポイント多い。

自身に関することでは「子どもの教育にかかる経済的な不安が大きくなっていること」が47.7%と最も多くなっており、未就学児保護者と比較すると7.8ポイント多い。「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」「子育てによる身体の疲れが大きいこと」についても、一定の割合で回答があるが、いずれも未就学児保護者と比較するといずれも10ポイント前後少なくなっている。子の成長に伴い、身体的な負担は軽減されるが、経済的な負担が大きくなっていることがうかがえる。

2. 子育ての相談先

【問 11 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がありますか。【単数回答】】

図 3 - 2 子育ての相談先

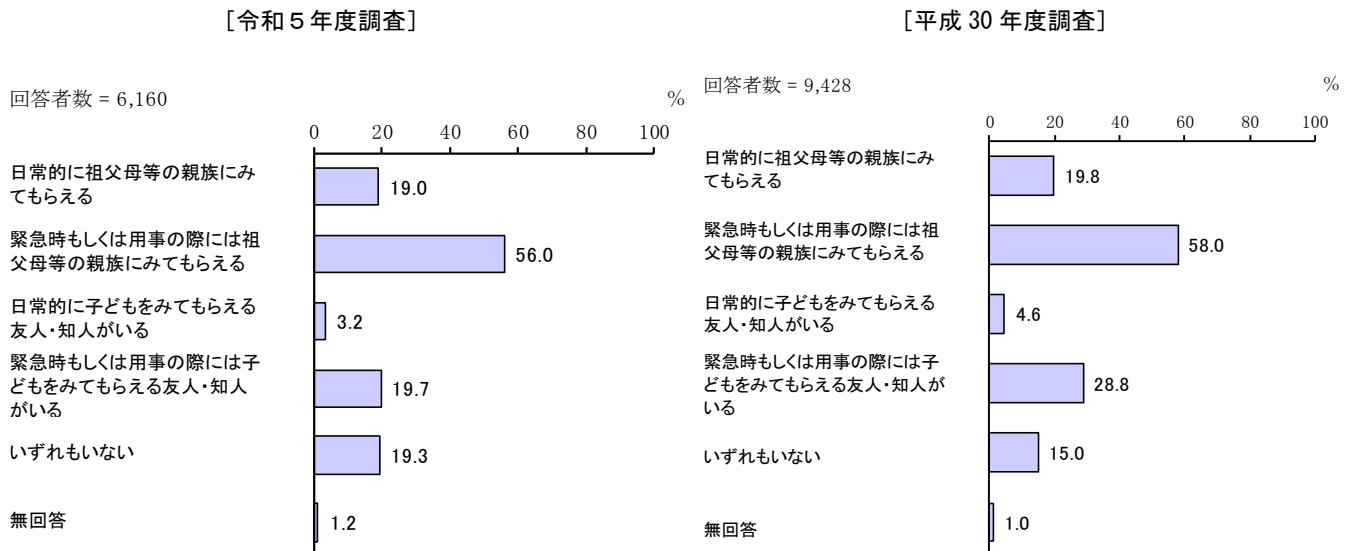


気軽に相談できる人や場所の有無について、「いる・ある」は 88.4%であり、5 年前と比べて、94.6%→88.4%と 6.2 ポイント減少。

3. 子どもの見守り

〔問 12 日頃、自分に代わって宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。【複数回答】〕

図 3-3 子どもの見守り



「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、56.0%。5年前と比較すると「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が28.8%→19.7%と9.1ポイント減少。「いずれもない」は19.3%。5年前と比較すると15.0%→19.3%とわずかに(4.3ポイント)増加。

4. 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用希望

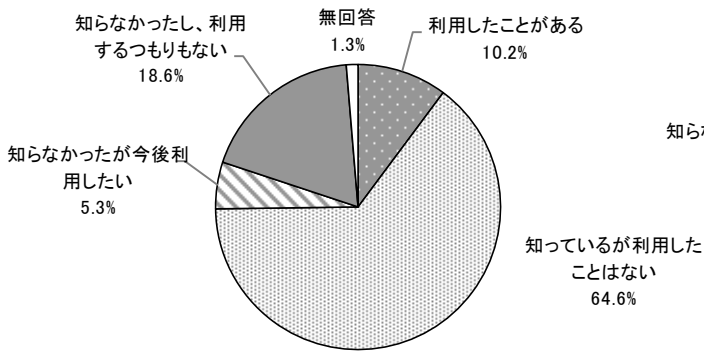
〔問 13 子育てに関する相談や助言、情報提供を行う①～④について、利用したことはありますか。【単数回答】〕

図 3-4 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用希望

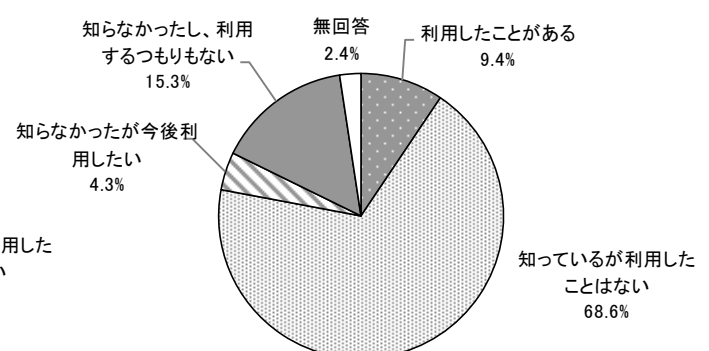
【①区役所の子育て相談窓口】

[令和 5 年度調査]

[平成 30 年度調査]



回答者数 = 6,160

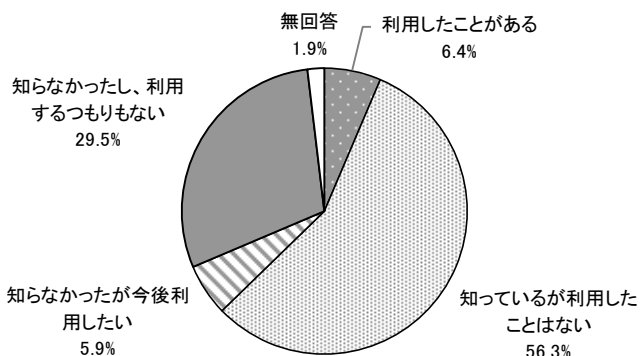


回答者数 = 9,428

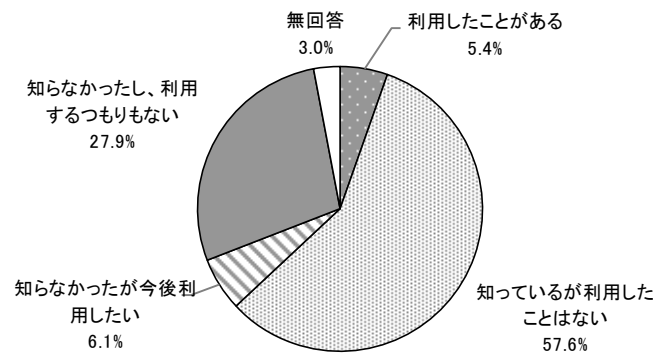
【②児童館子育て相談】

[令和 5 年度調査]

[平成 30 年度調査]



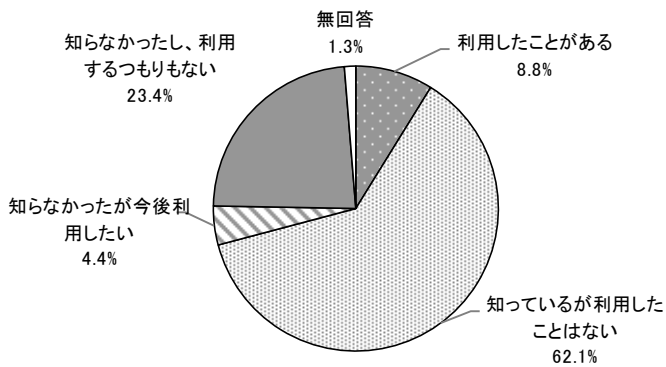
回答者数 = 6,160



回答者数 = 9,428

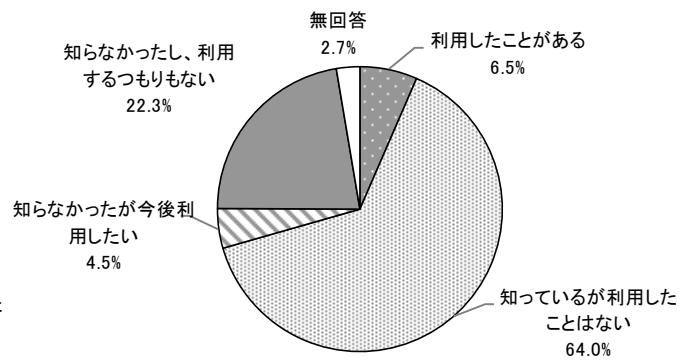
【③子ども家庭センター（児童相談所）】

[令和5年度調査]



回答者数 = 6,160

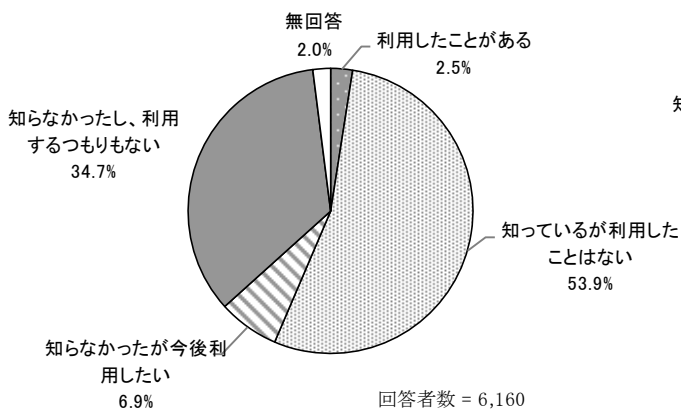
[平成30年度調査]



回答者数 = 9,428

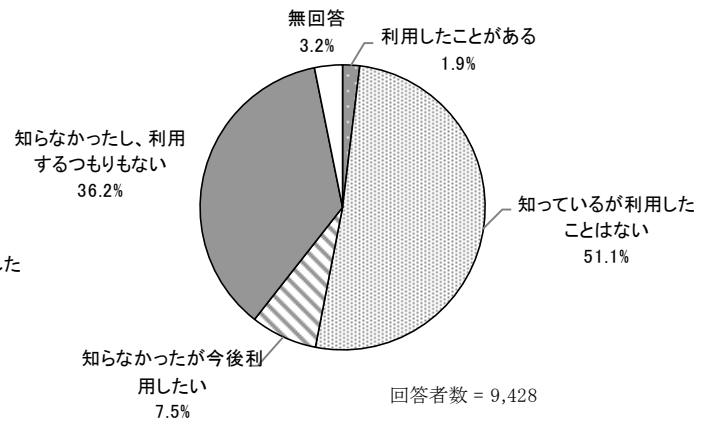
【④児童家庭支援センター】

[令和5年度調査]



回答者数 = 6,160

[平成30年度調査]



回答者数 = 9,428

いずれの事業も5年前とほぼ同様。

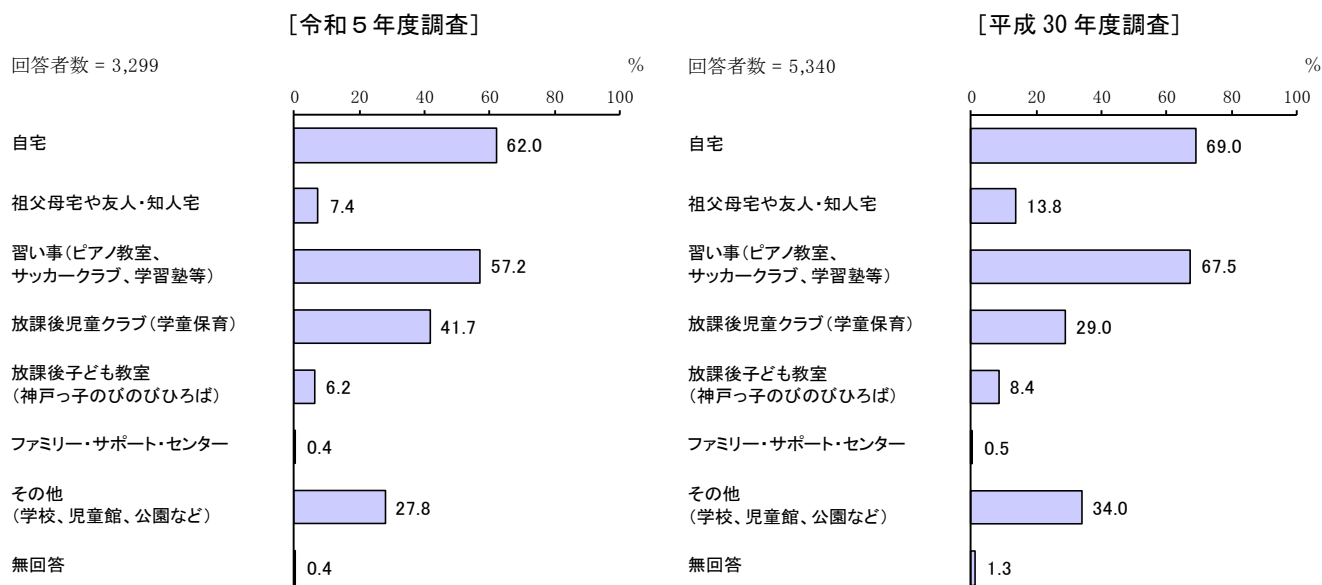
4 放課後の過ごし方

1. 現在の利用状況

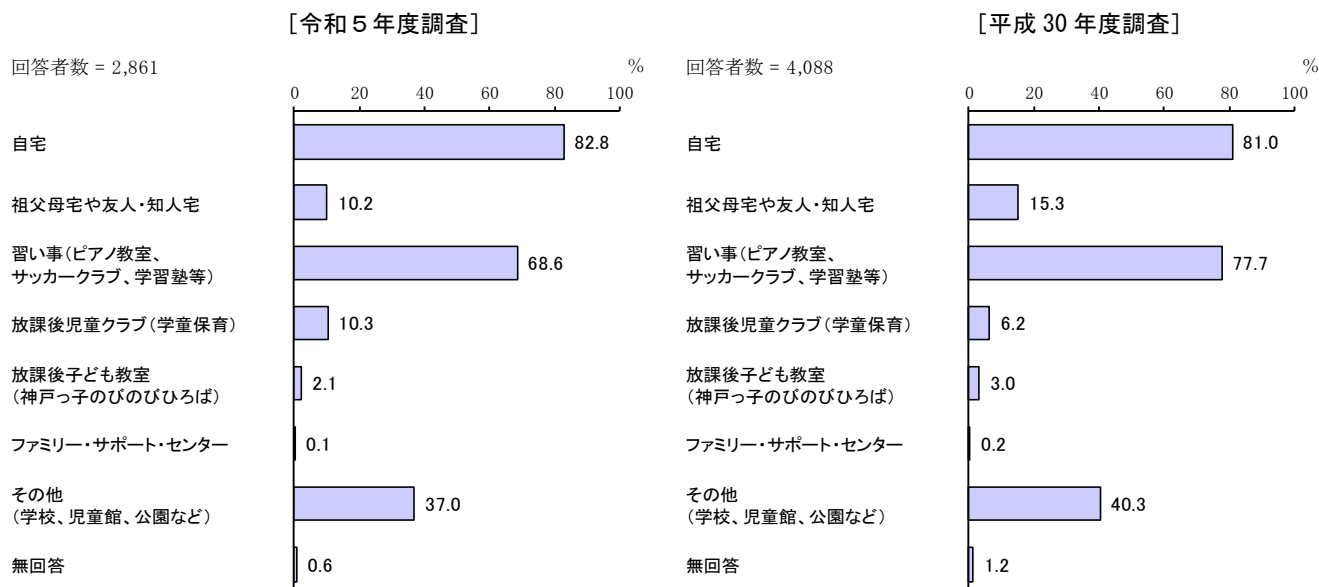
【問 15 宛名のお子さんは、現在、放課後等の時間をどのように過ごしていますか。【複数回答】】

図 4 - 1 現在の利用状況

【低学年】



【高学年】



低学年では「自宅」が最も多く 62.0%、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が 57.2%となっている。「放課後児童クラブ（学童保育）」は 41.7%となっており、5年前と比較すると、29.0%→41.7%と 12.7 ポイント増加している。

高学年では「自宅」が 82.8%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が 68.6%となっており、低学年と比べて多くなっている。「放課後児童クラブ（学童保育）」は 10.3%となっている。

2. 今後の利用希望・日数

【問 16 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後等の時間をどのように過ごさせたいですか。【複数回答】】

図 4-2 今後の利用希望・日数

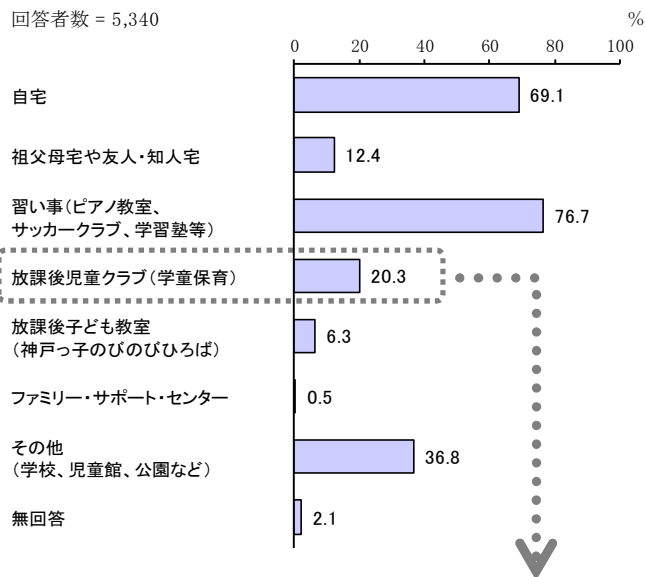
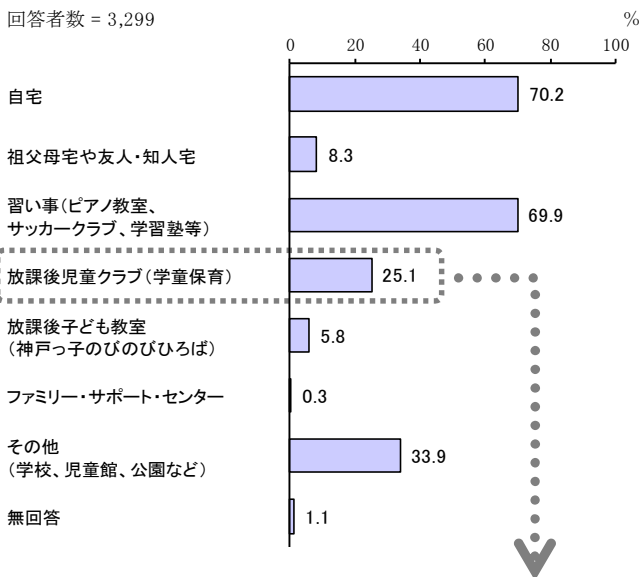
【低学年】

[令和5年度調査]

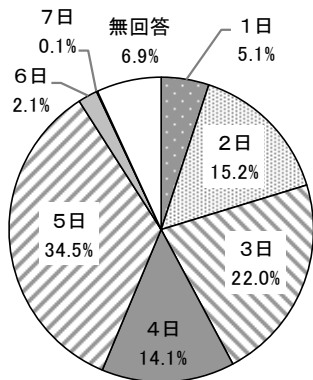
[平成30年度調査]

回答者数 = 3,299

回答者数 = 5,340

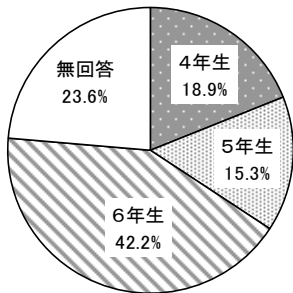


【利用したい日数【単数回答】】



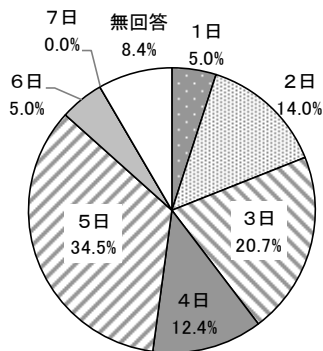
回答者数 = 829

【何年生まで利用したいか【単数回答】】



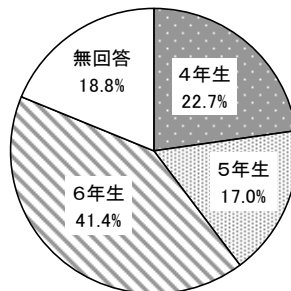
回答者数 = 829

【利用したい日数【単数回答】】



回答者数 = 1,086

【何年生まで利用したいか【単数回答】】



回答者数 = 1,086

【問 16 宛名のお子さんについて、今後（小学生の間）、放課後等の時間をどのように過ごさせたいですか。【複数回答】】

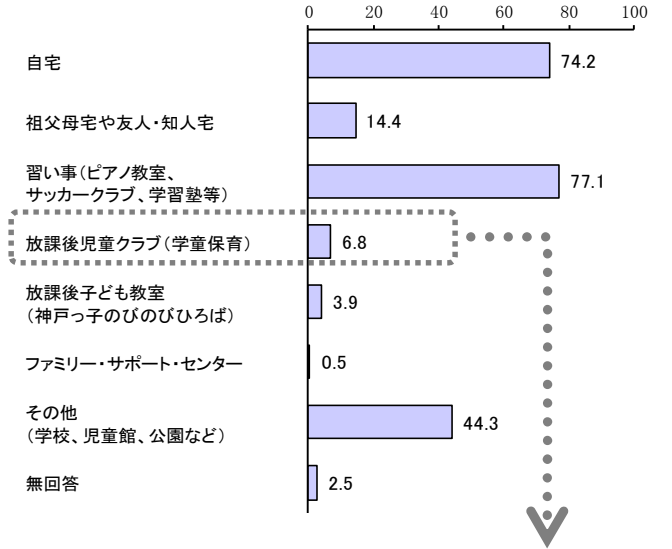
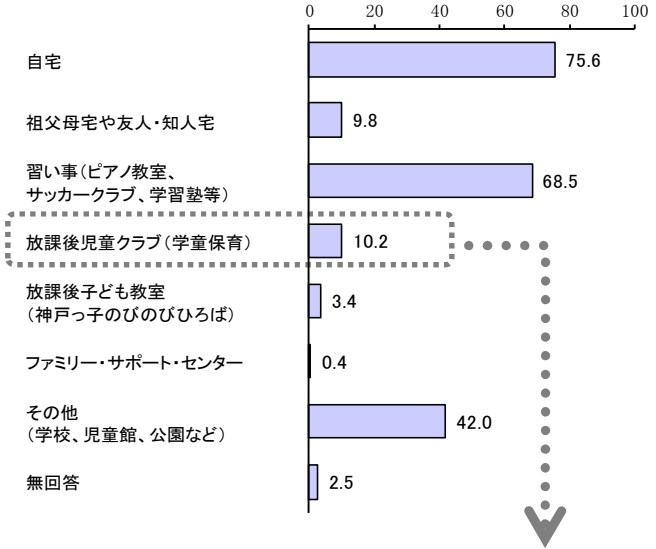
【高学年】

[令和5年度調査]

[平成30年度調査]

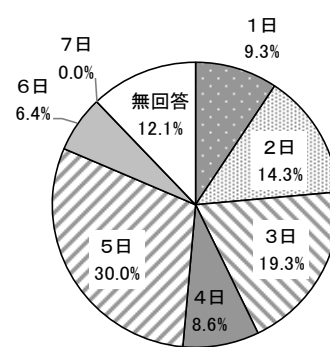
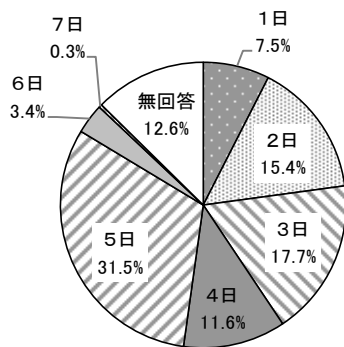
回答者数 = 2,861

回答者数 = 4,088



【利用したい日数【単数回答】】

【利用したい日数【単数回答】】

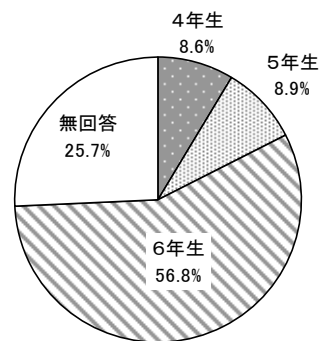
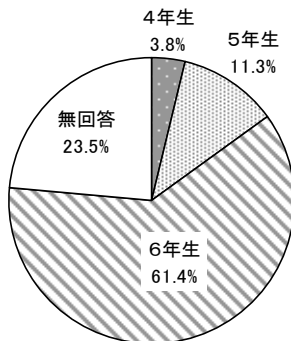


回答者数 = 293

回答者数 = 280

【何年生まで利用したいか【単数回答】】

【何年生まで利用したいか【単数回答】】



回答者数 = 293

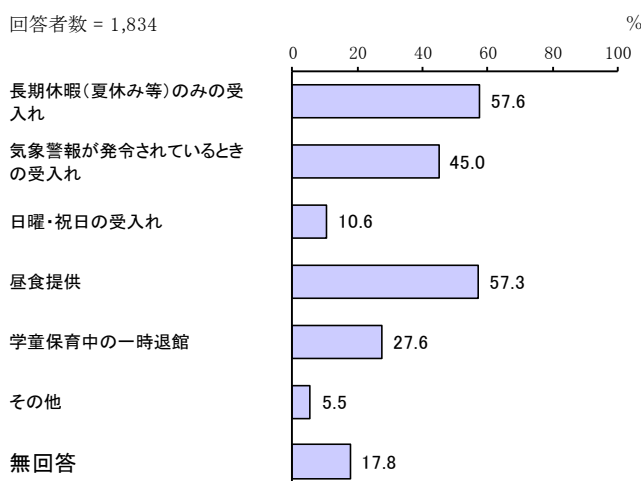
回答者数 = 280

放課後の過ごさせ方の希望は、低学年では「自宅」が70.2%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が69.9%、高学年では「自宅」が75.6%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が68.5%となっている。「放課後児童クラブ（学童保育）」は低学年で25.1%、高学年で10.2%であり、5年前と比較するとわずかに増加（低学年4.8ポイント、高学年3.4ポイント）

3. 放課後児童クラブの今後利用を希望するサービス

〔問 17 宛名のお子さんについて、次の項目に係る利用希望はありますか。【複数回答】〕

図 4-3 今後利用を希望するサービス



「長期休暇（夏休み等）のみの受入れ」が最も多く 57.6%、次いで「昼食提供」が 57.3%、「気象警報が発令されているときの受入れ」が 45.0%と多くなっている。

5 不定期の一時預かり（宿泊を伴うものを含む）等の利用状況と利用希望

1. 不定期の一時保育等の利用状況及び利用希望

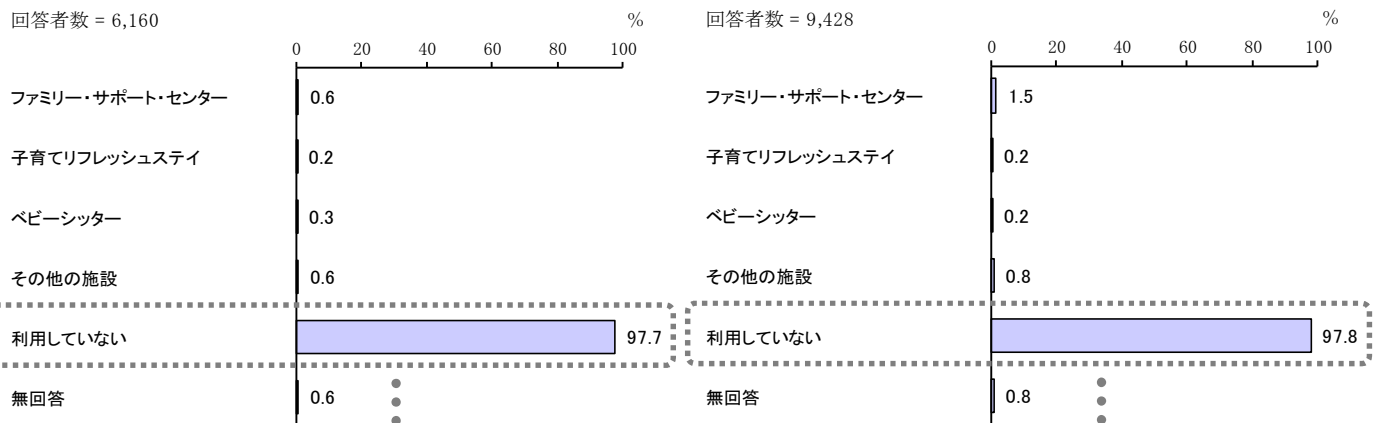
〔問 18 宛名のお子さんについて、（病児・病後児の預かり以外に）私用、リフレッシュ、冠婚葬祭、学校行事、家族の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業はありますか。【複数回答】〕

図 5 - 1 不定期の一時預かり等

【現状】

[令和 5 年度調査]

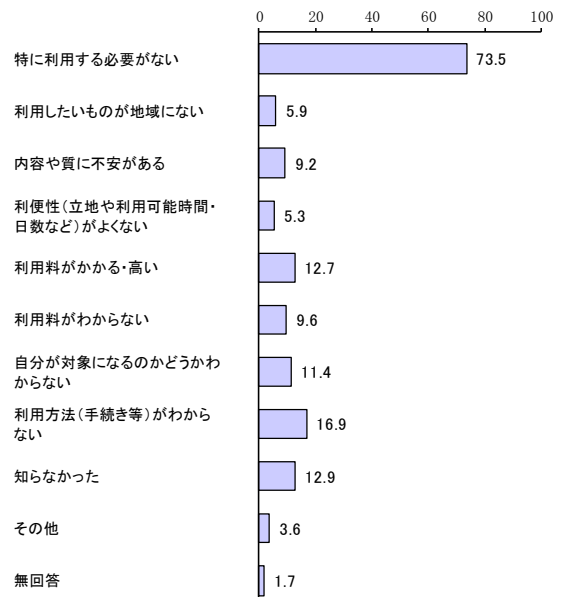
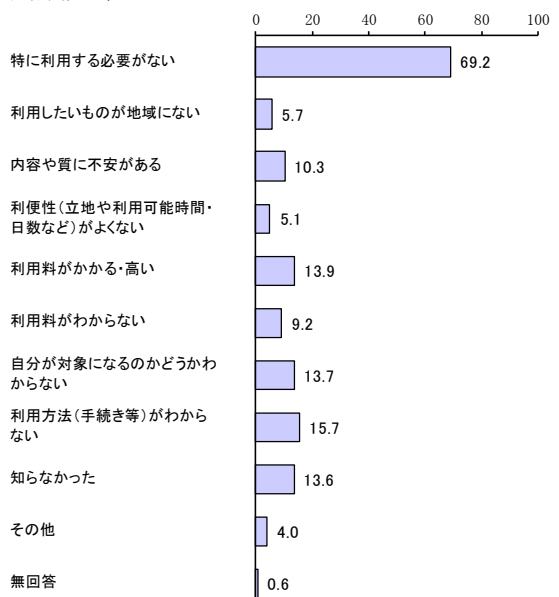
[平成 30 年度調査]



〔現在利用していない理由〕

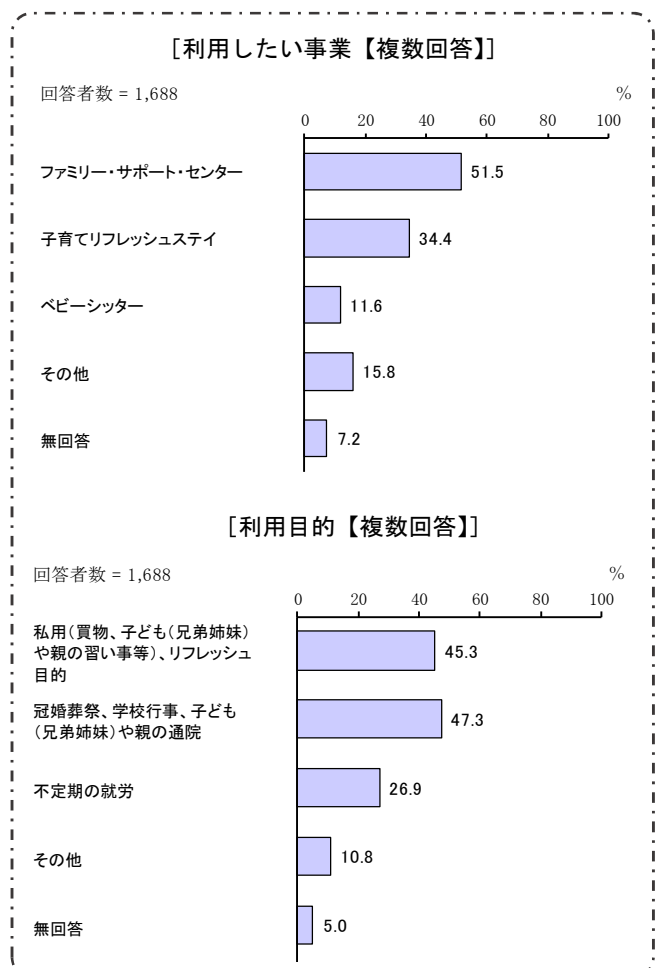
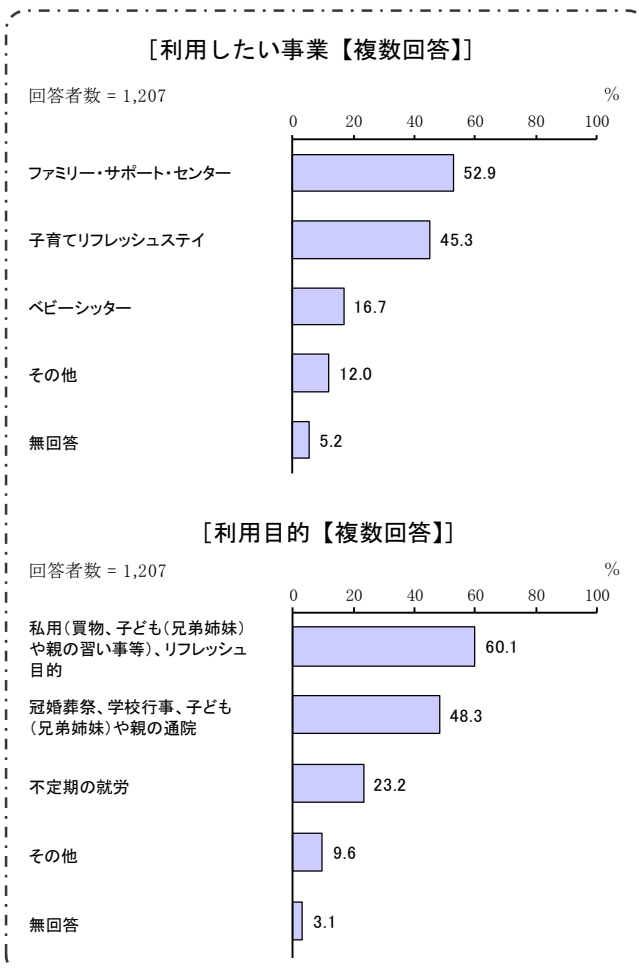
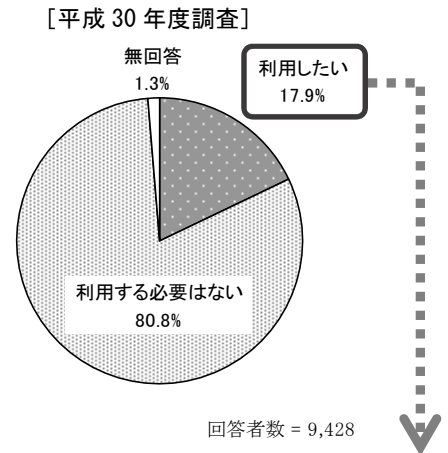
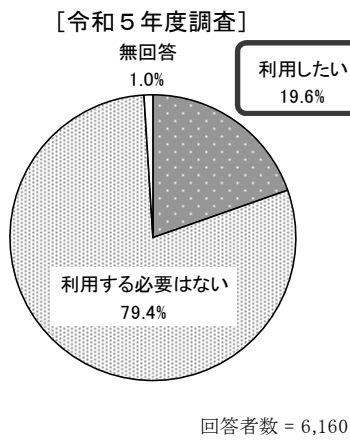
回答者数 = 6,021

回答者数 = 9,224



【問 19 宛名のお子さんについて、私用、リフレッシュ、冠婚葬祭、学校行事、家族の通院、不特定の就労等の目的で、問 18 のような事業を利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。【単数回答】】

【利用希望】



選択肢のいずれの事業も、利用しているという回答は少なく1%前後であり、利用していない人は97.7%となっている。利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」が69.2%と最も多い。利用希望を問う設問では「利用したい」が19.6%となっており、未就学児保護者と比較すると大幅(35.1ポイント)に少なくなっている。

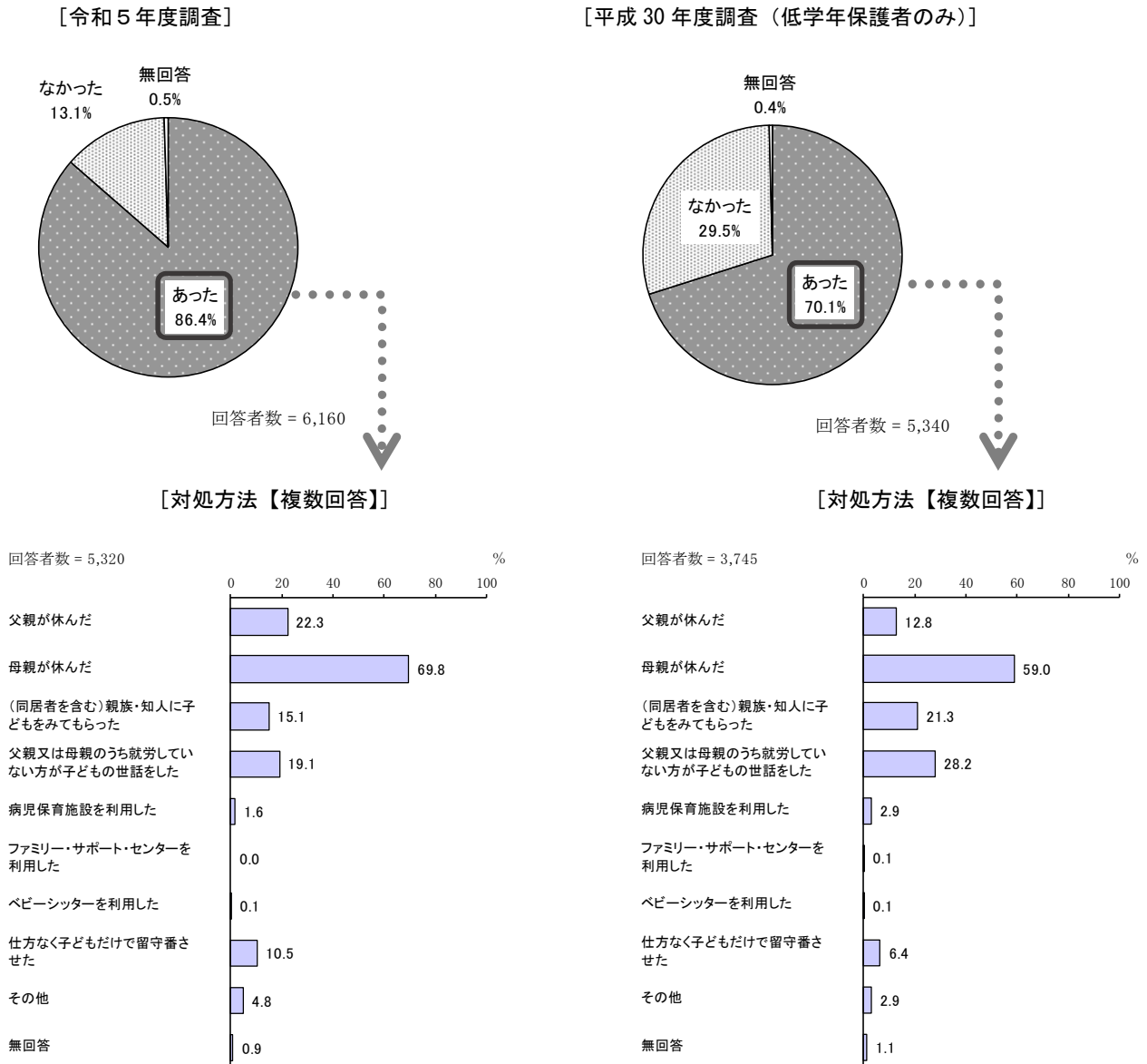
6 病気やケガの際の対応

1. 病気やケガの際の対応

〔問 21 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで学校を休んだことはありますか。【単数回答】〕

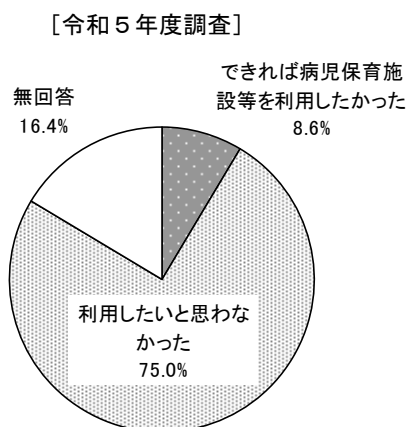
図 6-1 病気やケガの際の対応

【利用の状況】

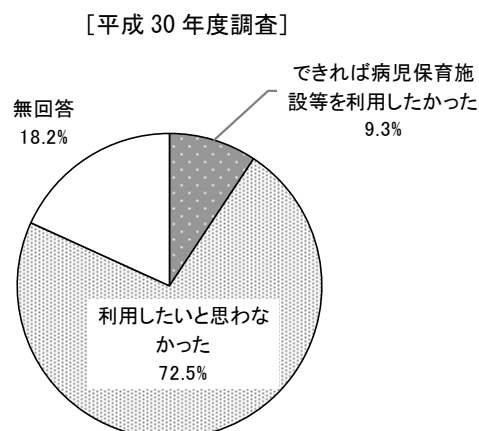


〔問 21-4 問 21-1 で「5. 病児保育施設」「6. ファミリー・サポート・センター」を選ばなかった方に
うかがいます。その際、「できれば病児保育施設等を利用したい」と思われましたか。
【単数回答】】

【利用希望】



回答者数 = 5,265



回答者数 = 3,594

病気やケガで学校を休んだことが「あった」が 86.4%、「なかった」が 13.1%となっており、5年前と比較すると、「あった」が 70.1%→86.4%と 16.3 ポイント増加。対処方法では「母親が休んだ」が 69.8%、「父親が休んだ」が 22.3%となっている。5年前と比較すると、「父親が休んだ」「母親が休んだ」が共に増加している（父親 9.5 ポイント、母親 10.8 ポイント）。

「病児保育施設を利用した」「ファミリー・サポート・センターを利用した」はそれぞれ 1.6%、0.0%。それ以外の層が、問 21-4 において「できれば病児保育施設等を利用したかった」と回答した割合は 8.6%であった。

IV 小学校高学年本人

1 放課後の過ごし方

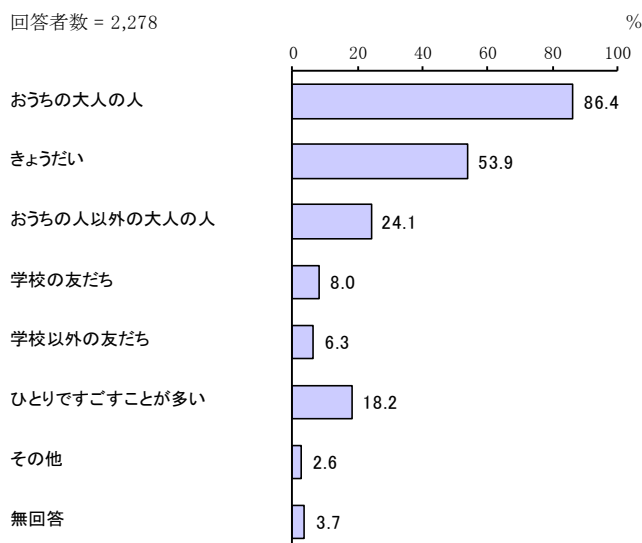
1. 放課後の過ごし方

【問5 あなたは、月曜日～金曜日の放課後をどのようにすごしていますか。【複数回答】】

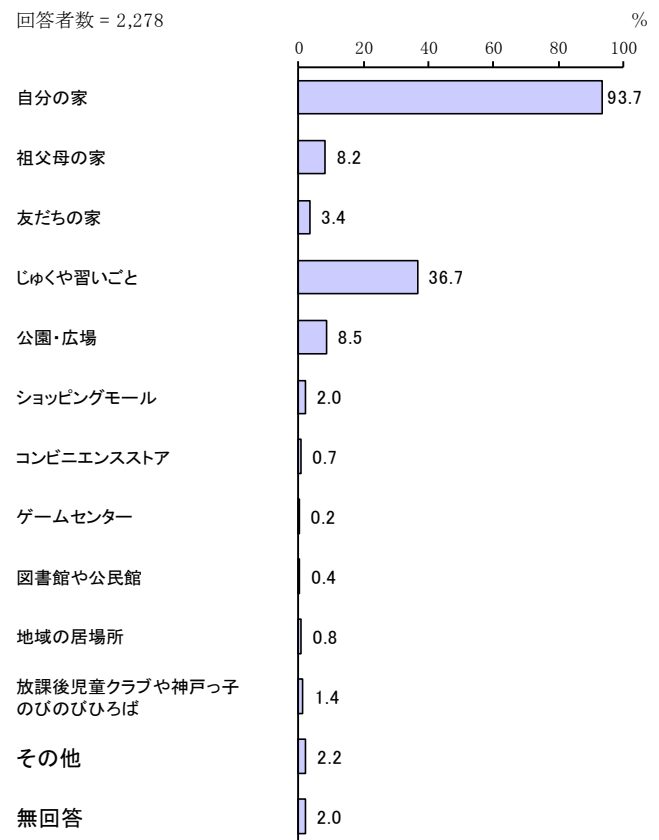
図1-1 放課後の過ごし方

【午後6時から午後7時まで】

[誰とすごしているか]



[どこですごしているか]



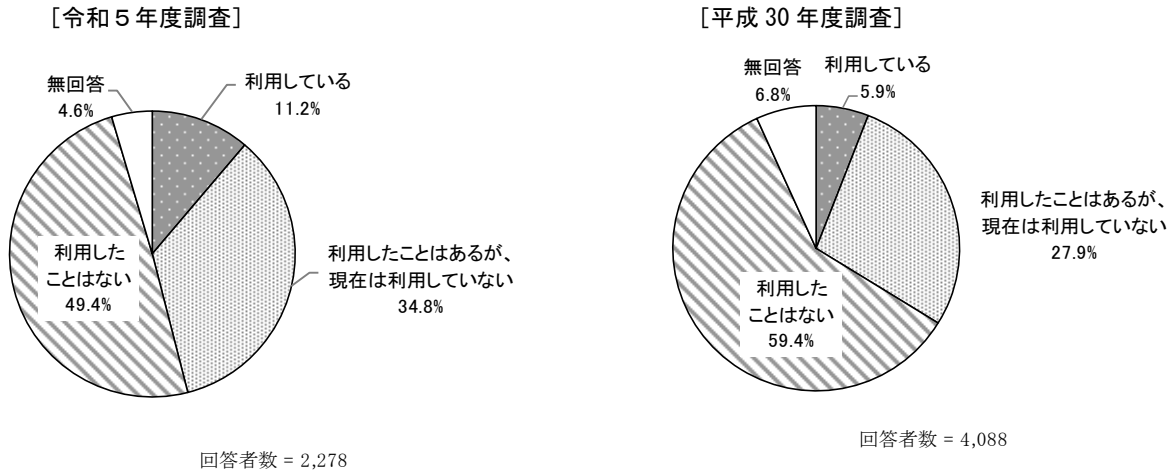
放課後の過ごし方は、「おうちの大人の人」が最も多く、86.4%。次いで、「きょうだい」が53.9%。「ひとりですぐすことが多い」は18.2%となっている。どこで過ごしているかについては、「自分の家」が最も多く、93.7%、次いで「じゅくや習いごと」が36.7%。

2 放課後児童クラブ（学童保育）等の利用状況

1. 放課後児童クラブ（学童保育）の利用の有無

〔問6 あなたは、放課後児童クラブ（学童保育）を利用したことがありますか。【単数回答】〕

図2-1 学童保育の利用状況

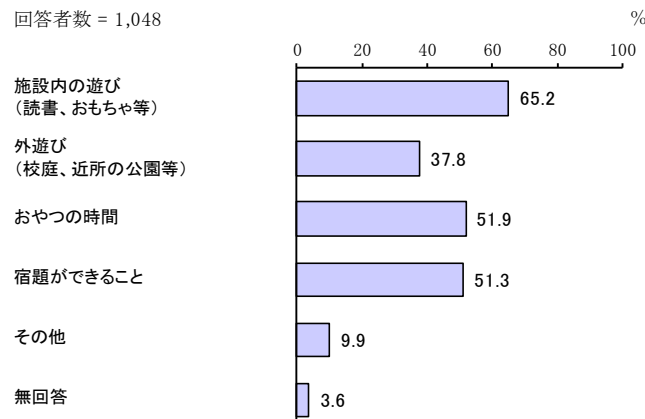


放課後児童クラブ（学童保育）の利用は、5年前と比較すると「利用している」が5.9%→11.2%と5.3ポイント増加しており、「利用したことはない」が59.4%→49.4%と10ポイント減少している。

2. 放課後児童クラブ（学童保育）の活動で良かったこと

〔問7 放課後児童クラブ（学童保育）の活動で良かったことを教えてください。【複数回答】〕

図2-2 放課後児童クラブ（学童保育）の活動で良かったこと

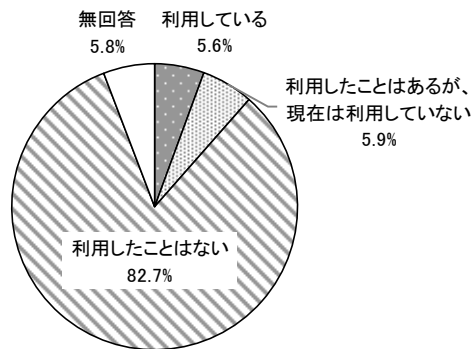


「施設内の遊び（読書、おもちゃ等）」の割合が最も多く65.2%、次いで「おやつ時間」が51.9%、「宿題ができること」が51.3%となっている。

3. こどもの居場所の利用の有無

〔問 9 あなたは、地域の方が食事を提供してくれたり（こども食堂）、勉強を教えてくれる「こどもの居場所」を利用したことがありますか。【単数回答】〕

図 2-3 こどもの居場所の利用状況



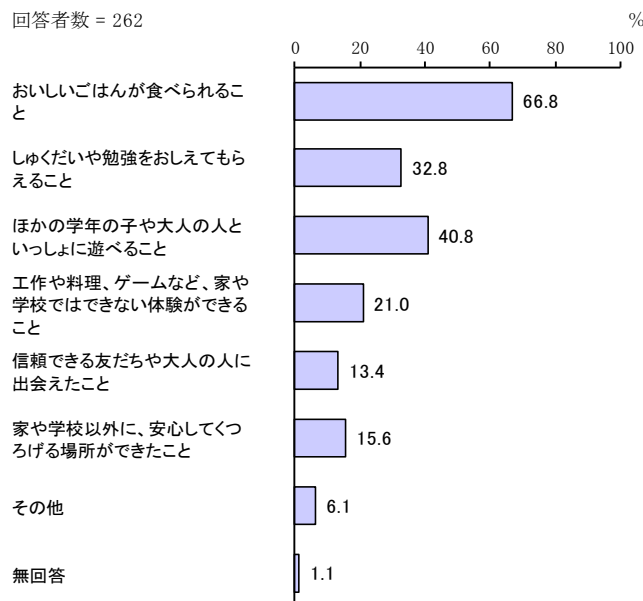
回答者数 = 2,278

こどもの居場所を「利用している」が 5.6%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」が 5.9% となっており、合わせると 11.5% が利用したことがあるという結果となっている。

4. こどもの居場所を利用してよかったこと

〔問 10 「こどもの居場所」を利用してよかったことを教えてください。【複数回答】〕

図 2-4 こどもの居場所を利用してよかったこと



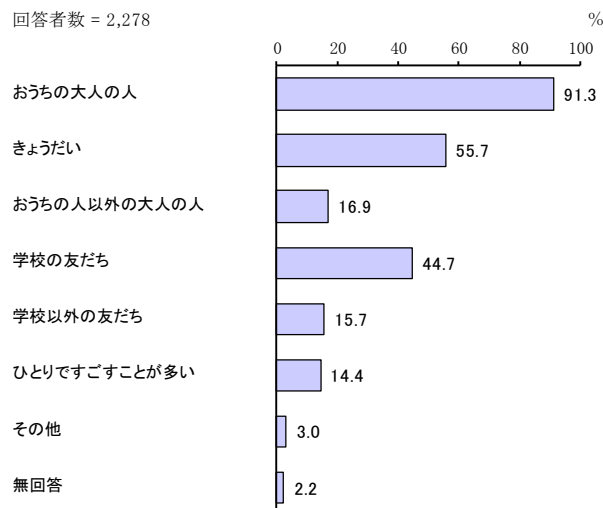
「おいしいごはんが食べられること」が最も多く 66.8%、次いで「ほかの学年の子や大人の人といっしょに遊べること」が 40.8%、「しゅくだいや勉強をおしえてもらえること」が 32.8% となっている。

3 休みの日の過ごし方

1. 休みの日に誰と過ごすか

〔問 11 あなたは、土曜日、日曜日や祝日などの休みの日は、だれといっしょにすごすことが多いですか。次の中から、多い順に3つまで選んで、その順番に番号を記入してください（あてはまるものが、1つまたは2つだけでもかまいません）【複数回答（3つまで）】〕

図 3 - 1 だれと過ごすか

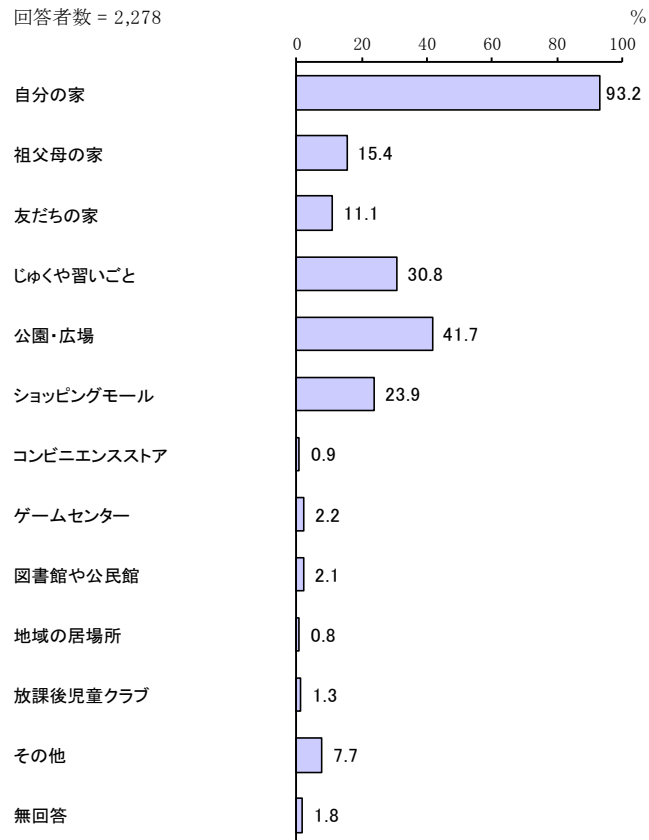


「おうちの大人の人」が最も多く、91.3%、次いで「きょうだい」が55.7%、「学校の友だち」が44.7%。「ひとりですごすことが多い」は14.4%となっている。

2. 休みの日にどこで過ごすか

〔問 12 あなたは、土曜日、日曜日や祝日などの休みの日は、どこで過ごすことが多いですか。次の中から、多い順に3つまで選んで、その順番に番号を記入してください
(あてはまるものが、1つまたは2つだけでもかまいません)。【複数回答(3つまで)】〕

図3-2 どこで過ごすか



「自分の家」が最も多く、93.2%、次いで「公園・広場」が41.7%、「じゅくや習いごと」が30.8%となっている。